

平成 30 年度 事業 報 告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

I 法人本部

平成 30 年度は、介護報酬改定、障害福祉サービス報酬改定が行われ、特に後者において当法人の根幹ともいえる就労支援事業 B 型に大きな改定が行われた。事業の目的を問われるかの如く平均工賃の実績に基づく体系へと変化し、大きな影響が危惧されたが利用者確保による利用稼働率の向上、就労活動の更なる活発化による工賃向上に結びつけ、前年度を若干上回る収益を確保できた。就労活動においては前年を大きく凌ぐ実績を上げることができた。一方で、利用稼働率向上が最重要課題である矢田デイサービス事業は 3 年連続の赤字決算となっており苦戦している。引き続き法人の重要課題として取り組むこととして位置づけている。

□財政基盤の強化と事業の活性化

平成 30 年度は、法人の老朽化した建物の改修とその財源確保のため、「安定的財政基盤構築元年」と位置づけ、第三期 3 か年計画を策定し法人財政基盤の強化を目指したところであるが、建物群の改築及び財源についての十分な計画の作成までには至らなかった。引き続き必要とする財源を安定的に担保できる財政基盤の構築を法人重要課題として取り組む。

前年度着工した港ワークキャンパスのパンの缶詰の第二工場が 7 月末に竣工し、機械の調整など準備を重ね、10 月には「港ワークあおなみキャンパス」との名称で正式に稼働を開始した。就労継続支援事業 B 型の定員増（+20 名）を果たし、パンの生産力強化と利用者増につなげることができた。

また、当年度から創設された新サービスにも着手し、福祉制度の枠を取り払う共生型サービスには 2 つの事業所で指定を受け、既存の就労移行支援事業では就労定着支援事業の指定を受け、それぞれで実績を上げている。

当年度で受託期間の 5 年が満了となる港区障害者基幹相談支援センターの受託法人の公募が行われ、引き続き NPO 法人まちかどサポートセンターとの共同体事業（コンソーシアム）の形態を維持して臨むこととなり、次年度から 5 年間の受託法人として選定された。増員となる相談員の確保や育成などの課題はあるが、地域のインフラとして関わりを保つためにも更に努力する。

緑風の土地活用問題で、名古屋市と協議しながら新棟建築の補助金交付協議書を提出していたが、一度は国の選考で落選したものの、補正予算の中で年度末に交付が決定した。平成 31 年度中の完成に向けて急ぎ準備にとりかかれない。

戸田川グリーンヴィレッジの隣地にて障害者自立支援施設が開設されることとなり、9 月に名古屋市が受託法人の公募を行った。既存施設の活性化と新規施設計画の中身が就労継続支援事業 B 型・就労移行支援事業も含まれていたこともあり、地域活

性化を含んだ計画を策定し選考に臨んだが、結果的に他法人が受託することとなった。

□人材の確保、育成と強化

当年度新卒者採用は 10 名を目標とし、人材確保が年々厳しくなる中、7 名を採用することができた。

内部研修の強化に向けて計画してきた係長を中心とした役職者のマネジメント向上研修として、「主任・係長研修」を実施した。各拠点から 1 名ずつ選出された主任が上司とペアになり、12 月・3 月の 2 回シリーズで受講した。内部研修かつ少人数ゆえの風通しの良さもあり活発なやり取りが行われ、好評であったため次年度以降も継続する。

また、各拠点での施設運営の一端を担う課長職を中心に、平成 31 年度から副施設長として任命し、施設長の補佐や管理業務を司ることとした。

永らく法人統一の資格取得支援制度が懸案事項となっていたが、3 福祉士を中心とした助成制度を定めた。特に介護福祉士の取得については、実務者研修の費用助成を定め、平成 31 年度から施行することとした。

働き方改革関連法について内容を整理すると共に、先駆けて年次有給休暇の取得促進を促しつつ、義務化に向けての課題整理を行うと共に、育児短時間制度の拡大や時間単位有給休暇制度の整備など働きやすい職場環境づくりを進めた。

□地域貢献活動の推進

これまで具体的な活動としての参画が果たせずにいた「なごやよりどころサポート事業」に、全施設が中間的就労を受け入れる事業所登録を行った。未だ受入れ実績はないものの、今後候補者が浮上してきた際は積極的に応じていく。

また、福祉避難所の指定について検討し、港区の名古屋盲人情報文化センターは設備面で見送りとなったものの、千種区の緑風にて指定を受けることができた。

地域貢献活動の一環として、本部の下で地域の視覚障害者への歩行訓練や情報提供、ネットワーク構築を行ってきた視覚障害者支援室を拡充するため、地下鉄日比野駅間近に事務所を構えることとなった。次年度 6 月からは法人全体の組織体制も見直しつつ、障害者相談支援事業と併設する形で幅広く視覚障害者からの相談に応じ、適切な制度やサービスなどにつなげる窓口として開設し、視覚障害者支援の名古屋ライトハウスの顔としての役割を果たしていく。

□コンプライアンスとガバナンス強化、法人組織改革の推進

更なる幅広い見地での評議員会の活性化を図るため、新たに評議員 2 名を増員し、総数 12 名の体制となった。一方で理事 1 名が急逝されたことにより減員となり、7 名の体制となっている。

制度改正以来初めてとなる平成 29 年度決算にかかる会計監査人による会計監査を受審した。監査結果は無限定適正意見となったものの、監査の中で指摘された販売管理システムの不備や内部統制の徹底化について、改善を図るべく調整を続けている。

コンプライアンスのチェックとして、諸規程全般の整備と運用についての内部監査

も実施し（7月）、課題等の明確化を踏まえ、監事監査等でも指摘された経理規程をはじめとする契約関連規程の整備はかなりの時間を要したものの、年度末にようやく整えることができた。今後、重要なのはこの規程類に沿った運用であるため、いかに分かりやすく周知し、徹底することができるかが喫緊の課題だと考えている。

また、社会福祉法人においても効率性・生産性の向上が求められている。既に業務には欠かすことができない ICT 技術の拡充推進として、業務の集中化と効率化を図るために法人内全ての事業所をネットワークでつなぎ、情報共有やトラブル対応などを本部主導で行える土台が形成できた。

1 経営実施状況

(1) 諸会議

ア 評議員会の開催状況 （計4回）

開催年月日	議 題
【定時評議員会】 平成 30 年 6 月 26 日 (火) 午後 1 時 45 分	議案：なし 報告事項 1：平成 29 年度 事業報告 報告事項 2：平成 29 年度 決算報告 報告事項 3：監事監査報告 報告事項 4：理事会決議事項などの報告 報告事項 5：その他報告事項
平成 30 年 9 月 20 日 (木) (書面による全員の 同意による決議日)	第 1 号議案 定款変更 (案) について 新築物件竣工に伴い、定款の基本財産の表記を変更するもの
平成 30 年 11 月 29 日 (木) 午後 1 時 42 分	第 1 号議案 平成 30 年度 第一次補正予算 (案) について 第 2 号議案 役員等報酬規程の改定について 報告事項 1：平成 30 年度 上半期事業報告および中間決算 について 報告事項 2：理事会決議事項などの報告 報告事項 3：その他報告事項
平成 31 年 3 月 27 日 (水) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 平成 30 年度 第二次補正予算 (案) について 第 2 号議案 平成 31 年度 事業計画・収支予算 (案) につ いて 報告事項 1：平成 31 年度 新体制について 報告事項 2：理事会決議事項などの報告 報告事項 3：その他報告事項

イ 理事会の開催状況 (計9回)

平成30年4月4日(水) 午前10時40分 緑風2階会議室	
議案	第1号議案 緑風の建物違法性解消のための協議について 第2号議案 諸規程の改定について (報告) 港ワークキャンパス第2工場の建設状況について パンの缶詰の新品について
主な発言	新棟建築に向けて今後も名古屋市と協議を継続する。利用者への影響を最小限にしつつ、できるだけ法人負担分を抑えるようにする。
平成30年6月11日(月) 午後1時45分 名古屋市中企業振興会館 第4会議室	
議案	第1号議案 平成29年度事業報告・決算(案)について 第2号議案 評議員選任候補(案)について 第3号議案 定時評議員会の招集および議案について 第4号議案 諸規程の改定について 第5号議案 港ワークキャンパス第二工場建築について 第6号議案 会計監査人の報酬について (報告) 理事長等の職務執行状況、第三期3か年計画数値目標等、 緑風新棟建築計画について、など。
主な発言	経理規程をはじめ諸規程の改正について早急な対応が必要。 矢田マザー園の利用稼働率改善に向けての取り組みが必要。 施設修繕費が増加しているため、改築計画を精査し必要財源確保への計画を立てる必要がある。
平成30年8月28日(火) 午後1時45分 名古屋市中企業振興会館 第2会議室	
議案	第1号議案 基本財産の取得に伴う定款変更(案)について 第2号議案 諸規程の改定について 第3号議案 施設長の任免について 第4号議案 障害者基幹相談支援センター運営事業委託への応募について 第5号議案 瀬古第一マザー園ベッド入替整備事業について (報告) 港ワークキャンパス第二工場完成報告、緑風新棟建築の協議経過について、戸田川グリーンヴィレッジ隣地事業の公募について、明和寮就労継続支援事業B型ピロ包装事業について、愛盲報恩会各賞選考結果について、など。

主な発言	港区障害者基幹相談支援センターの専門性（精神分野）の向上を目指すこと。 戸田川 GV 隣地事業は情報を収集しながら検討を続けること。
平成 30 年 10 月 22 日（月）午後 1 時 25 分 福祉ホームかわな会議室	
議案	第 1 号議案 中川区富永一丁目新規整備施設整備法人の募集（報告）過去理事会の懸案事項の経過報告、など。
主な発言	他ではあまり例がない事業であるので、情報収集・勉強をしながら計画すること。 名古屋市と連携し地域の理解を得ながら慎重に進めること。
平成 30 年 11 月 20 日（火）午後 1 時 45 分 名古屋市中企業振興会館 第 2 会議室	
議案	第 1 号議案 平成 30 年度上半期事業報告・中間決算（案）について 第 2 号議案 平成 30 年度第一次補正予算（案）について 第 3 号議案 諸規程の改定について （育児休業・給与規程・役員等報酬規程） 第 4 号議案 瀬古マザー園ベッド購入について 第 5 号議案 緑風新棟建築工事について 第 6 号議案 評議員会の招集（11/29）および議案について （報告）理事長等の職務執行状況の報告について、資産運用状況の報告について、理事会懸案事項経過報告、など。
主な発言	瀬古マザー園矢田デイサービスの利用稼働率向上（目標 60%）を計画的に進めること。 補正予算概要では、大きな変化がある箇所には増減した理由を明記すること。
平成 31 年 1 月 16 日（水）午後 1 時 45 分 名古屋市中企業振興会館 第 2 会議室	
議案	第 1 号議案 熱田区テナントにおける障害者相談支援事業等の新規開所について （報告） 戸田川隣地 施設整備について、理事会懸案事項経過報告、など。
主な発言	日比野相談支援事業は視覚障害者が相談しやすい敷居の低い事業所を目指すこと。
平成 31 年 2 月 27 日（水）（書面による全員の同意による決議日）	
議案	第 1 号議案 福祉ホーム黎明荘の居室の一部の用途変更並びに定員減について国庫補助金等の対象施設の一部用途変更の承認
平成 31 年 3 月 19 日（火）午後 1 時 45 分 名古屋市中企業振興会館 第 2 会議室	

議 案	<p>第 1 号議案 平成 30 年度 第二次補正予算（案）について</p> <p>第 2 号議案 平成 31 年度 事業計画（案）・当初予算（案）・平成 31 年度資産運用方針（案）について</p> <p>第 3 号議案 平成 31 年度新体制について</p> <p>第 4 号議案 諸規程の改定について</p> <p>第 5 号議案 緑風 新棟建築にかかる設計管理委託契約について</p> <p>第 6 号議案 施設長等の継続雇用にかかる更新について</p> <p>第 7 号議案 評議員会の開催について （報告）</p> <p>期中監事監査の報告について、戸田川グリーンヴィレッジ隣地状況報告、平成 31 年度重点事項の設定と取組について、理事会懸案事項経過報告、その他（任期の満了について・平成 31 年度年間計画）</p>
主な発言	<p>新年度事業計画に過去の理事会での議論や監事監査の結果を反映させること。</p> <p>瀬古マザー園矢田デイサービスの収支改善計画を事業計画にも反映し、今後の方向性も含めながら検討を進めること。</p>

ウ 評議員選任・解任委員会の開催状況（計 1 回）

開催年月日	議 題
平成 30 年 6 月 26 日（火） 午前 11 時 30 分	第 1 号議案 評議員の選任について

エ 法人運営委員会の開催状況（計 21 回）

開催年月日	議 題
平成 30 年 4 月 24 日（火）	新卒者採用活動、研修について（新人、基礎、フォローアップ） 名古屋盲人情報文化センター人事について ワーク第二工場新築事業の進捗 緑風について
平成 30 年 5 月 7 日（月）	事業毎の収支マイナスの要因についての情報収集と分析 新卒者採用活動について 地域における公益的な取り組みについて 内部監査について
平成 30 年 5 月 29 日（火）	平成 29 年度資産運用報告について 事業毎の収支マイナス要因について 夏季賞与について
平成 30 年 6 月 5 日（火）	理事会の準備（監査報告・新評議員の選任、緑風について、ワーク第二工場について）
平成 30 年 6 月 月 20 日（水）	人材部門：フォローアップ研修会（7/10 開催） 評議員選任解任委員会の開催(6/26 11：30～開催) 評議員会の準備(6/26 開催)

	<p>愛盲報恩会：第13回近藤正秋賞・片岡好亀賞募集中</p> <p>【その他報告】緑風について、ワーク第二工場について、さわやか健康リレーマラソン参画について、名古屋市「地域生活支援拠点事業所」開設事業者の募集説明会について</p>
平成30年7月4日（水）	<p>理事会・評議員会後の動き(新評議員への対応、次回理事会8/28について、役員研修会について)</p> <p>名古屋市「地域生活支援拠点事業所」開設事業者の公募：説明会の内容及び想定される事業状況から今回の公募は見送る。</p> <p>樋口邸有効活用検討委員会の発足：責任者 仁藤千春</p> <p><資産運用委員会の開催></p>
平成30年7月19日（木）	<p>次回理事会（8/28）について</p> <p><資産運用委員会の開催：地方債（北海道）の購入></p>
平成30年8月6日（月）	<p>次回理事会（8/28）：情報文化センター人事、定款変更手続、定着支援事業、港区障害者基幹相談支援センターの更新、障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募参加</p> <p>【その他報告】明和寮ピロー包装事業について</p>
平成30年8月21日（火）	<p>次回理事会（8/28）について</p> <p>愛盲報恩会：第13回近藤正秋賞・片岡好亀賞決定</p> <p>【その他報告】あおなみキャンパス完成と開設、明和寮ピロー包装事業、港区障害者基幹相談支援センターの更新、障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募（説明会8/30）参加、共生サービス開始（明和寮、9/1～）、定着支援事業開始（光和寮/明和寮、10/1～）、光和寮就労移行支援事業の移転（10/1～）</p>
平成30年9月4日（火）	<p>人材部門：法人職員研修会、法人基礎研修（10/10・11）</p> <p>事業推進部門：事業推進部長の業務について</p> <p>障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募（説明会8/30）参加</p>
平成30年9月19日（水）	<p>事業推進部長の業務について（港区基幹・緑風）</p> <p>【その他報告】市リハセン30周年記念式典、障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募について</p>
平成30年10月2日（水）	<p>樋口邸検討チーム活動について</p> <p>天白養護に事業所フェア出展(10/23)</p> <p>光和・明和寮印刷科統合に向けた打ち合わせについて</p> <p>矢田マザー園利用稼働率向上に向けた打ち合わせについて</p>

平成30年10月 24日(水)	<p>人材部門：主任・係長研修の実施に向けて（11、3月集合研修） 資格取得支援の仕組みづくりについて</p> <p>組織運営部門：アイのかけはしについて、内部監査について</p> <p>事業推進：矢田デイ運営についての会議実施（10/29）、明和・光 和寮印刷科統合に向けて会議実施(10/29)</p> <p>半期決算について報告</p> <p>障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募について</p> <p>マザー園30周年記念式典（5/8）について</p>
平成30年11月 6日(火)	<p>人材部門：主任係長研修について</p> <p>組織運営部門：安全運転管理者委員会 理事会（11/20）、評議員会（11/29）：半期決算、規程変更</p> <p>障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募について</p> <p>冬季賞与について：支給日、支給月</p> <p>【その他報告】日比野貸借物件、さわやか健康リレーマラソン報告</p>
平成30年11月 19日(月)	<p>理事会（11/20）、評議員会（11/29）について</p> <p>障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募について</p> <p>冬季賞与について（支給日12/7）</p> <p>【その他報告】日比野貸借物件について</p>
平成30年12月 4日(火)	<p>日比野物件について：基本的な方針（意思決定）</p> <p>【その他報告】三法人交流会（11/30）報告</p>
平成30年12月 20日(木)	<p>日比野物件について：基本的な方針（意思決定）</p> <p>施設長会・部長会：ライセンス取得支援制度の意見聴取、人材採用委員会の再編の要請</p> <p>【その他報告】年末・年始の動き確認、生活困窮者就労訓練事業（中間的就労）への登録要請について</p>
平成31年1月 8日(火)	<p>日比野物件について：契約手続きを進める。「日比野あいさぽーとセンター」の機能として相談支援事業、情文機能の一部移転、歩行訓練、用具販売、IT訓練、広報活動を行う</p> <p>カレンダーについて：平成31年度休日は112日とする（+1日）</p> <p>障害者自立支援施設（戸田川GV隣地）の公募について：落選となりAJUに貸与となる</p>
平成31年1月 22日(火)	<p>日比野物件について：開設準備委員会 明和 赤澤 責任者</p> <p>監事監査について：1/21実施</p>

平成 31 年 2 月 5 日 (火)	販売管理システム報告：価格も考慮し選定、夏前には導入目指す 人材部門：ライセンス取得促進制度調整中、主任・係長研修の 2 回目の準備 採用委員会再編 日比野開設 組織変更について：人事について調整中
平成 31 年 2 月 20 日 (水)	組織・事業について：光和寮拠点に緑風を組み込む、ひびの拠点 の設置、昇格人事と異動について
平成 31 年 3 月 12 日 (火)	理事会、評議員会について：新体制について、施設長の任免、期 中監事監査報告、戸田川隣地の苦情 組織変更と人事について：部門統括会議のメンバー最終調整 6/1 ひびの拠点の開設に伴う組織変更「日比野拠点」 ＜資産運用委員会の開催＞平成 31 年度の資産運用方針（案）
平成 31 年 3 月 18 日 (月)	理事会 3/19・評議員会 3/27 について 新規拠点「熱田・港地域生活支援拠点」の設置 緑風の光和寮統合 ＜法人人事委員会の開催＞

オ 施設長会議の開催状況 （計 12 回）

開催年月日	主 な 議 題
平成 30 年 4 月 24 日 (火)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 一括採用活動の報告（インターンシップについて）
平成 30 年 5 月 29 日 (火)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 一括採用活動の報告 6/11 理事会について
平成 30 年 6 月 20 日 (火)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 一括採用活動の報告、地域生活支援拠点説明会の報告 6/26 評議員会について
平成 30 年 7 月 19 日 (木)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 特定建築物の定期検査報告 8/28 理事会について 事業推進・組織運営部門より
平成 30 年 8 月 21 日 (火)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 戸田川 GV 隣地施設整備説明会への参加、港区基幹セ ンター運営団体募集について 8/28 理事会について 愛盲報恩会選考委員会報告
平成 30 年 9 月 19 日 (火)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 法人統合ネットワーク構築について 安全運転推進活動アンケートの報告 中間決算・第一次補正予算について
平成 30 年 10 月 30 日 (火)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告

	主任・係長研修の実施について 戸田川 GV 隣地施設整備への応募について 規程の変更について 11/20 理事会について
平成 30 年 11 月 19 日(月)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 冬季賞与支給について
平成 30 年 12 月 20 日(木)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 さわやか健康マラソン参加報告 平成 31 年度以降の人事考課について 生活困窮者就労訓練事業への登録について 1/16 理事会について
平成 31 年 1 月 22 日(火)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 日比野物件の有効活用についての進捗確認 平成 31 年度予算スケジュールについて ストレスチェック報告
平成 31 年 2 月 20 日(水)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 組織再編と事業、昇格人事、採用人事について 平成 31 年度 年間行事予定について 樋口邸有効活用検討委員会 事業提案発表
平成 31 年 3 月 18 日(月)	各拠点報告・実績報告、法人運営委員会、統括会議報告 法人人事委員会平成 31 年度新体制についての報告 3/19 理事会・3/27 評議員会について

(2) 登記事項

法人	平成 30 年度資産変更登記	平成 30 年 6 月 22 日登記
港ワークキャンパス	土地抵当権抹消登記	平成 30 年 11 月 15 日登記
港ワークキャンパス	建物抵当権抹消登記	平成 30 年 11 月 15 日登記

(3) その他

① 国兼基金事業

物故者慰霊祭（八事霊園） 平成 30 年 10 月 13 日 参加 215 名

② 補正予算

・ 第一次補正予算	平成 30 年 11 月 20 日	理事会同意
	平成 30 年 11 月 29 日	評議員会承認
・ 第二次補正予算	平成 31 年 3 月 19 日	理事会同意
	平成 31 年 3 月 27 日	評議員会承認

③ 職員研修

・ 法人基礎研修（年 2 回開催）	①平成 30 年 4 月 3・4 日	参加 19 名
	②平成 30 年 10 月 10・11 日	参加 17 名
・ 法人フォローアップ研修	平成 30 年 7 月 10 日	参加 19 名
・ 職員全体研修	平成 30 年 9 月 1 日	参加 207 名

研修テーマ「仕事の楽しさ 再発見！」(会場 名古屋観光ホテル)
・主任・係長研修 平成 30 年 12 月 19 日、31 年 3 月 6 日
参加 12 名

2 助成・寄付に関する特記事項 (順不同)

(1) 助成に関する特記事項

愛知県共同募金会 — 名古屋盲人情報文化センター
ボランティア研修事業補助金 600,000 円
公益財団法人 日本財団
— 港ワーク 就労支援トラック購入助成金 5,000,000 円
愛知県共同募金会
— 港ワーク 就労支援パン製造分割機助成 2,090,000 円

(2) 寄付に関する特記事項 (順不同)

坂文種報徳会 様	500,000 円 (法人)
中島 真太郎 様	105,000 円 (国兼基金)
錦・葵・東山ロータリークラブ様	174,000 円 (光和寮)
アンサンブルアミー 様	300,000 円 (明和寮)
加藤 淳二 様	362,000 円 (情報文化センター)
奥村 了子 様	100,000 円 (情報文化センター)
藤澤 加代子 様	200,000 円 (戸田川)
宮治 玲子 様	1,000,000 円 (戸田川)
その他 52 件	合計 3,314,558 円

3 地域貢献活動

(1) 『視覚障害者支援室』

光和寮拠点と連携しながら相談・講座等を中心に活動した。また、名古屋盲人情報文化センターにおいて、歩行訓練サービスの本格開始、視覚障害関連ネットワークの維持拡大、特に医療機関への相談員派遣など新しいつながりと地域におけるシームレスな視覚障害者支援体制構築の模索と実践に努めた。

① 生活支援や就労支援の相談

問い合わせのあった方の相談において、当施設内で対応できる場合は各部署へ、対応できない場合は他施設等を紹介した。

② 講座の開催、講師派遣

- ・地域向け講座の開催：最新電子レンジを活用した料理教室、光和寮と共催の料理教室の開催
- ・講師派遣：福祉の里（同行援護従業者養成研修、4日間）、医療福祉サポート機構（同行援護従業者養成研修、4日間）、介護労働安定センター（初任者研修）、小

学校等

- ・光和寮拠点「クリエイト川名（地域活動支援事業）」のIT（パソコン、スマホ等）講座への支援。
 - ・眼科ロービジョン外来への相談員派遣
医療から福祉へつなぐ役割として、患者さんへ福祉制度全般・便利用具の紹介・白杖歩行の体験など、情報提供を含めた相談対応を行った。
（名古屋市立大学病院ロービジョン外来） 回数 4回、人数 計 4名
（眼科三宅病院ロービジョン外来） 回数 5回、人数 計 29名
- ③ 地域の福祉ネットワークの構築維持と積極的な参画
- ・昭和区自立支援協議会当事者部会への参加
 - ・名古屋視覚障害研究会（名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター視覚支援課、名古屋盲人情報文化センター、光和寮、瀬古第二マザー園）への活動（勉強会・見学会）参加と実施。
 - ・「スマートサイトあいち」の維持（愛知県歯科医師会の見学対応など）
「スマートサイトあいち」を元に、視覚支援施設の見学。医師・視能訓練士・看護師が実際の福祉現場を確認し、患者さんへの情報提供への活用が目的。今年度においては、名古屋盲人情報文化センター見学（7月・10月の2回、計20名対応）と瀬古マザー園見学（3月、計19名対応）を実施した。
- ④ 同行援護従業者養成研修の実施
実施回数 2回（昭和会場（9月）、港会場（2月）各回5日間）
修了者数 昭和会場 17名、港会場 16名
- ⑤ 歩行訓練サービス
※名古屋盲人情報文化センター事業報告の項にて詳述。

（2）『愛盲報恩会』

助成事業として、15団体・部会・事業等に総額1,360,000円の助成を行った。
また、第13回近藤正秋賞・片岡好亀賞・地域活動特別賞の受賞者を選定し、1月12日に受賞者および推薦者を迎え、名古屋盲人情報文化センターにて贈呈式および記念スピーチを行った。

（3）地域交流行事

- | | | |
|--------|------------------------|-------------|
| 4月21日 | 明和寮・港ワークキャンパスほか | ライトハウス福祉まつり |
| 5月27日 | 名古屋盲人情報文化センター | 用具展 |
| 9月8日 | 緑風（東部地域療育センターぽけっととの共催） | 緑ぽけまつり |
| 9月30日 | 戸田川グリーンヴィレッジ | 秋祭り |
| 11月4日 | 瀬古マザー園 | ふれあい祭り |
| 11月10日 | 光和寮 | 地域交流フェスティバル |

4 基幹相談支援センター 『港区障害者基幹相談支援センター』

平成 30 年度は、障害支援区分更新が多く、530 件程調査があった。自宅訪問する事も多く、外来での相談件数は減少した。相談内容としては、障害児に関する新規相談が増加した。学校や学校応援委員会、保健師からの相談も多く、様々な機関と支援ネットワークを作り支援を行っている。

また、地域啓発活動として、I 型地域活動支援センターと協力し地域の方がどなたでも立ち寄れる「かもめ食堂」を 3 回開催した（8, 11, 2 月実施）。障害のある方もない方も一緒に食事をする事で障害理解を深めることができ社会参加につながる等の目的で始めたが、食材の確保等、準備段階から地域の方の協力も多く得られ、新しい地域とのつながりも作ることができた。

自立支援連絡協議会の活動としては、設立 10 周年の記念事業を行った。開催当日は台風の接近により縮小しての開催となったが、協議会の 10 年を振り返ったパネル展示や記念講演、アンケートを実施し今後の活動につながる事業となった。

ア 相談実績件数

	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
H28 年度	806 (11)	2,820 (1)	32	3,658 (12)
H29 年度	547 (11)	3,462 (1)	34	4,043 (12)
H30 年度	835 (10)	2,066	63	2,901 (10)

※（ ）内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲（ピアフラワー講座含む）

※外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は 10 分以上の相談をカウント。

Ⅱ 光和寮 拠点

障害者支援施設	『光和寮』
就労継続支援事業 B 型	
就労移行支援事業	名古屋東ジョブトレーニングセンター
就労定着支援事業	『名古屋東ジョブトレーニングセンター』
生活介護事業	
施設入所支援	
福祉ホーム	『かわな』『やすだ』
同行援護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぽーと』
地域活動支援事業	『デイサービスセンター クリエイト川名』
相談支援事業	『光和障害者相談センター』 『りょくふう障害者相談センター』

事業計画における 5 項目の課題に対する取り組みと、光和寮拠点の活性化の具体的な検討に向け、当年度は 8 つの課題（人権、地域貢献、危機管理、5S、広報、人材育成、満足度アップ、起業）を掲げ委員会を設置した。定期勉強会による知識の向上、民生委員とのつながり強化、新しいパンフレットの作成、美化活動等々それぞれに成果が上がった。また、事業を横断したつながりの醸成もでき有意義な委員会活動となった。

各計画についての報告は次のとおり。

① デイ棟建替え

設計段階には至らなかったが、デイ棟建替え時に一時的に引越しする利用者数（約 80 名）が減らせるよう、活動面積の確保を進めることができた。

② 利用者のステップアップ

就労面では、1 名だが B 型から一般就労へつながった。住まいの面では「入所→福祉ホーム→地域生活」という意識ができ、4 名が新たな住まいへと移行した。

③ 会議体の見直し

全体の会議体では意思決定が明確になるよう取り組んでいる最中である。各部署では会議への取り組み姿勢が改善した。

④ 就労継続 B 型での企業連携

対企業に加え、中小企業センターや銀行などへアプローチを進めたが内職下請けの域からの脱却は進んでいない。

⑤ 地域貢献活動

区社協や民生児童委員との接点が増し、社協を利用しての地域の視覚障害者向け調理教室など試行が進んでいる。

1 障害者支援施設 『光和寮』

(1) 就労継続支援事業 B 型

当年度は、①具体的な個別支援計画の立案、②きめ細やかなモニタリングによる生産性と満足度の向上、③「作業」と「訓練」の境界を設け、ステップアップを意識した作業環境作り、④高工賃を稼げる事業を創出する、の4点について取り組んだ。①②については実施方法、管理方法を変更し改善を図った。③では他拠点や就労移行の見学を行い一般就職につながるケースもあった。④については営業活動の活性化を図り新たな作業と取引先の獲得、下半期の売上増につなげることができた。高工賃を稼げる事業創出には至っていないが、具体化できるよう引き続き取り組む。

治療部では、目標としていた顧客のリピート率向上を達成。10月には新人治療師のデビューにあたり教育システムを構築、他の治療師の施術力向上にも活用して全体の底上げもでき、下半期は売上を伸ばし予算の達成に至った。

印刷科では、通常印刷に加えて、複写・アセンブリ・配送まで担う仕分業務等の大口案件を受注し売上に大きく貢献した。また職員間・利用者間の情報共有を密にして発注ミスや作業ミスを減らし、利益率を上げることができた。

部品加工科では、主要取引先からの受注は減少傾向だったが、既存作業の見直しを徐々に進め、新たな取引先の確保に注力し売上増につなげた。また3カ月の施設外就労を試行。新たな柱となる作業の獲得とともに次年度に継続する。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
H28年度	47	28	75	H28年度 平均		36,154
H29年度	51	24	75	H29年度 平均		35,859
H30年度	55	22	77	H30年度 平均		35,589
治療部	5	5	10	185,965	30,659	89,881
印刷科	7	5	12	113,173	12,600	50,918
部品加工科	43	12	55	78,746	12,600	23,431

※在籍者は期末現在数。工賃は平成28年度までは年間在籍者のみだったが、平成29年度以降は就労継続支援事業B型の基本報酬算定の工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

治療部	年間の来院数 3,165人 年間の新規来院数 113名 1顧客あたりの平均単価 3,165円
印刷科	冊子製本 年間：116件 封筒印刷 年間：176件 名刺印刷 年間：783件 録音速記 年間：158時間
部品加工科	マーカー本体、先端部分の組付け、ペン加工作業：6,900,000個 ギフトセット組み作業：116,000セット

	アメニティグッズセットアップ作業：160,000 個 イベントグッズ検品作業：49,000 個 検査キットセットアップ作業：3,600 個
--	---

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
H28 年度	7	10	74	80
H29 年度	9	9	74	
H30 年度	13	7	80	
(H30 年度退所者)：法人内他施設 1 名、一般就職 1 名、他施設 1 名、自宅 4 名				

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	32	26	0	20	4	0	75(7)
H29 年度	32	29	1	18	2	0	75(7)
H30 年度	33	29	1	16	3	0	77(5)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H28 年度	19	2	14	25	15	0	0	75
H29 年度	18	1	11	29	16	0	0	75
H30 年度	19	1	12	27	16	1	1	77

カ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H28 年度	1	8	16	16	15	19	75	45.0 歳
H29 年度	0	8	14	15	15	23	75	48.9 歳
H30 年度	2	9	14	11	18	26	80	48.6 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
80	H28 年度	254	17,893	70.4	88.1%
	H29 年度	253	17,011	67.2	84.0%
	H30 年度	252	17,585	69.8	87.2%

(2) 生活介護事業

利用者像の変化による活動の見直しや新たな外出企画による魅力アップ、また個人別の利用状況と定員を意識した利用の声掛けにより、利用稼働率は89.9%まで向上した。作業メニューでも継続可能な作業や障害特性に合わせた作業を提供できた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	3	2	24	20
H29年度	1	2	23	
H30年度	6	2	27	
(H30年度退所者)：他施設入所2名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	8	9	4	9	0	0	24(6)
H29年度	7	8	4	10	0	0	23(6)
H30年度	8	7	6	12	3	0	27(9)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	0	0	0	7	6	5	6	24
H29年度	0	0	0	7	7	4	5	23
H30年度	0	0	1	8	7	5	6	27

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	7	1	3	6	7	24	48.2歳
H29年度	0	8	0	3	5	7	23	41.3歳
H30年度	1	9	1	4	4	8	27	44.5歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	H28年度	236	3,613	15.3	76.5%
	H29年度	233	3,669	15.7	78.7%
	H30年度	237	4,264	17.9	89.9%

カ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	313名
音楽講師	64名
マッサージ	12名

(3) 施設入所支援

(生活支援)

数年来の課題であった食事提供サービスの改善として、11月より平日昼食の選択メニューを導入。たいへん好評を得ている。

利用者の高齢化への対応では1名が高齢者施設へ移行、1名が現在待機中。また感染症対策として緊急用個室2室を確保した。他には、調理教室の開催や屋上及び外壁修繕工事などを実施。サービス向上と環境整備に努めた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	3	2	22	32
H29年度	3	1	24	
H30年度	4	4	24	

(30年度退所者)：地域移行1名、高齢者施設1名、自宅1名、福祉ホーム1名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	11	7	0	8	1	0	22(5)
H29年度	12	10	0	6	0	0	24(4)
H30年度	13	8	0	9	0	0	24(6)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	0	0	3	11	8	0	0	22
H29年度	0	0	4	12	8	0	0	24
H30年度	0	0	7	9	7	1	0	24

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	1	0	3	6	6	6	22	50.5歳
H29年度	0	1	3	6	6	8	24	57.1歳
H30年度	1	1	3	3	8	8	24	50.3歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
外出ボラ	40名
地域交流フェスティバル	33名
メイクサロン	5名
メガネ メンテナンス	1名
新年を祝う会(鍋)	4名
調理実習	11名

(4) 就労移行支援事業 「名古屋東ジョブトレーニングセンター」

更なる事業の活性化を目指し 10 月に事業所を千種区へ移転。利用者の戸惑いや問い合わせの減少など心配もあったが、良好な立地条件や丁寧なお知らせ等により過去最高の利用稼働率と就職実績を出すことができた。また、視覚障害の就職者を出すことができ、法人の視点としても大きな前進となった。

新事業所を起点として、就労支援における地域の課題や社会問題に対し試行的取り組みも活発に行った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定員
H28 年度	16	17	16	1	18
H29 年度	23	19	20	3	
H30 年度	19	24	15	5	20

※平成 30 年度の定員は 8 月より従来の 18 名から 20 名へ変更

※B 型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H28 年度	12	1	2	2	17
H29 年度	14	2	1	2	19
H30 年度	15	1	3	5	24

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	0	0	1	14	4	0	16(3)
H29 年度	1	2	0	15	2	0	20(0)
H30 年度	1	0	1	12	1	0	15(0)

() 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	13	0	0	2	1	0	0	16
H29年度	16	0	1	2	1	0	0	20
H30年度	13	0	1	0	1	0	0	15

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	6	9	0	1	0	0	16	21.8歳
H29年度	6	10	2	2	0	0	20	24.4歳
H30年度	6	3	2	2	2	0	15	29.6歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
18	H28年度	254	3,853	15.2	84.3%
	H29年度	256	4,713	18.4	102.3%
20	H30年度	253	5,191	20.5	106.2%

※平成30年度の定員は8月より従来の18名から20名へ変更

2 就労定着支援事業「名古屋東ジョブトレーニングセンター」

平成30年10月の就労移行支援事業所の移転を機に本事業を11月より新規に開設。就労移行支援事業と一体的運営を行うにあたり、これまで大切にしてきた就職後の支援をベースに準備を進めた。すでに就職した対象者と家族へ手続き等の説明やフォローすることに注力し大きな混乱はなかった。これからも安心して働き続けることができるかと好評であった。開始後の離職はなく定着率は100%である。

ア 登録および利用状況

	年度登録者	年度解除者	期末登録者	延べ利用実績数
H30年度	32	0	32	78

※平成30年11月より事業開始

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H30年度	0	1	0	25	8	0	32(2)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H30年度	16	3	6	5	2	0	0	32

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H30年度	2	25	3	2	0	0	32	25.1歳

3 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1) 『かわな』

地域移行への支援が実って平成31年3月に夫婦用居室の利用者が公営住宅へ移転した。転居先地域は公営住宅の競争率が高く、依然として厳しい状況が続いている。設備面では空き部屋を畳部屋からフローリング部屋へ改装した。また、9月に台風により屋上のアンテナが破損したため修繕を行った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	0	0	14	15
H29年度	2	4	12	
H30年度	1	2	11	
(H30年度退所者)：地域生活2名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	6	8	1	0	0	0	14(1)
H29年度	5	7	0	1	0	0	12(1)
H30年度	5	6	0	1	0	0	11(1)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	7	0	5	2	0	0	0	14
H29年度	5	0	3	4	0	0	0	12
H30年度	2	0	3	6	0	0	0	11

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	0	0	2	5	7	14	57.2歳
H29年度	0	0	0	1	4	7	12	58.2歳
H30年度	0	0	0	1	5	5	11	58.0歳

(2) 『やすだ』

現在、外部ヘルパーを利用する方が6名。内3名は入浴介助を利用している。福祉ホーム利用者としての自立度が高まるよう、通院や役所の手続き等は本人がヘルパーに依頼できるよう支援した。設備面では、入居棟と一体で屋上及び外壁修繕工事を実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	2	4	8	11
H29年度	2	1	9	
H30年度	2	2	9	

(H30年度退所者)：他福祉ホーム1名、自宅1名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	2	6	0	0	0	0	8
H29年度	2	7	0	0	0	0	9
H30年度	1	8	0	0	0	0	9

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	2	0	1	2	3	0	0	8
H29年度	4	0	0	3	2	0	0	9
H30年度	4	0	1	2	2	0	0	9

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	1	3	1	2	1	8	42.3歳
H29年度	0	1	3	1	2	2	9	46.4歳
H30年度	0	1	2	1	1	4	9	50.2歳

4 同行援護・移動支援事業 『ガイドネットあいさぽーと』

既存利用者の活動が増え、月平均は目標の370時間を達成。新規ヘルパーは4名増えたが、不定期対応であり、利用者との相性も鑑みる必要があることから新規の依頼に対しての活動調整が依然困難となっている。今後はヘルパー研修会を通して、ヘルパーの質を高め、さまざまな利用者に対応できる体制を整える。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	47	0	0	5	0	0	48(4)
H29年度	48	0	0	4	0	0	49(3)
H30年度	48	0	0	5	0	0	49(4)

() 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	4	1	8	28	6	1	0	48
H29年度	4	1	10	29	4	1	0	49
H30年度	5	2	9	25	7	1	0	49

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	2	1	2	6	1	36	48	65.9歳
H29年度	2	1	1	5	4	36	49	65.3歳
H30年度	1	2	1	4	7	34	49	66.7歳

エ 活動実績時間数

	H28年度	H29年度	H30年度
移動支援（月平均）	0.3時間	0時間	11.1時間
同行援護（月平均）	338.5時間	374.4時間	384.6時間

※移動支援は名古屋市が視覚障害者を対象から外したことにより激減

5 地域活動支援事業 『デイサービスセンター クリエイト川名』

平成30年度は、部署会議の活性化や研修報告によるスタッフ間の情報共有によりサービス向上に努めた。また曜日毎の利用者数を意識し、欠席が出た場合の速やかな職員間連携と他利用者への声掛けを行った結果、利用稼働率は82.8%と前年度より増加し、課題であった収支もプラスに転じた。

要望の高い外出企画での人員確保が問題であったが、戦略的なボランティア募集の結果、年間延べ303名のボランティア参加があり、利用者満足度の向上につながった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	4	4	52	19
H29年度	6	5	53	
H30年度	7	0	60	

(H30 年度退所者) : 0 名

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	51	0	0	1	1	0	52(1)
H29 年度	52	0	0	1	1	0	53(1)
H30 年度	60	1	1	1	1	0	60(4)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H28 年度	0	1	3	3	8	37	52	66.2 歳
H29 年度	0	1	3	2	7	40	53	66.2 歳
H30 年度	1	1	3	2	4	49	60	67.0 歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
19	H28 年度	244	3,769	15.4	81.2%
	H29 年度	245	3,729	15.2	80.1%
	H30 年度	249	3,908	15.7	82.8%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	303 名
陶芸	184 名
音楽講師	12 名
体操講師	36 名

6 相談支援事業

『光和障害者相談センター』・『りよくふう障害者相談センター』

(1) 光和障害者相談センター

当年度は、遠方在住の利用者を居住地の相談事業所に移行する取組みを進めるとともに、近隣地域在住の利用者は可能な限り受け入れを行った。

3 月末時点で、相談員 5 名 (非常勤 1 名)、利用契約数は 388 名。地域移行支援では、精神病院の入院患者 2 名、施設入所者 1 名を支援。担当区の自立支援協議会の精神部会にも積極的に参加し、他事業所との情報共有に努めた。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H28年度	595	872	563	10
H29年度	540	778	430	8
H30年度	413	525	375	13

(2) りよくふう障害者相談センター

千種区内は相談事業所の数も少なく、また閉鎖する事業所もあるため、多くの依頼が寄せられた。当センターとして可能な限り受け入れるとともに、光和障害者相談センターや他の事業所への依頼も行い利用者の声を大切にしよう努めた。

3月末時点で、相談員3名、利用契約数は283名。地域移行支援を新たに開始し、精神病院の入院患者1名、施設入所者1名を支援。光和障害者相談センターと密に連携を取り情報収集や情報発信に努めた。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H28年度	101	188	97	4
H29年度	192	248	265	8
H30年度	300	382	270	13

Ⅲ 明和寮 拠点

障害福祉サービス事業	『明和寮』（多機能型）
就労継続支援事業B型	ビーサポート
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
就労定着支援事業	『明和定着支援事業』
生活介護事業	ぷちとまと
共生型 地域密着型 通所介護	『明和寮』
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
同行援護・重度訪問介護等事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえっとほーむ』
放課後等デイサービス	『わくわくキッズ』
放課後等デイサービス	『わくわくステップ』
相談支援事業	『明和障害者相談センター』

報酬改定の影響を最小限にとどめ、就労を筆頭にほぼ全事業で前年度より好調に推移した。今年度の最重要課題として挙げていた就労支援事業の収支の安定化においても、菓子製品包装科の立ち上げによる全体収益の増加、印刷科や包装加工科での内製化による差益の増加により予算を達成した。

利用者も職員も自立して主体的に行動できる職場環境を目指した結果、積極的に役割を担ったり、相互に支え合う場面も増えてきている。サービス管理責任者を中心とした個別支援体制を推進する中、異動してきた職員の発案によりケース記録の充実、ミーティング方法を変更したりと情報共有の仕組み改善も続けた。思いやり委員会では人権アンケートを集約後、各部署会議等でのほめシャワーやロールプレイなどを新たに導入し、自己理解と他者理解、寛容さの醸成に努めた。

職員入職時には座学や体験研修を、年末納会前には介助技術研修を行った。地域と協働での防災の街づくりへの意識は向上し、互いに防災訓練等に参加し合う関係性を構築できた。労働衛生委員会を毎月開催し、事故等の是正報告の仕組みを構築することで、労災事故は激減した（平成29年度：7件 → 平成30年度：3件）。

1 障害福祉サービス事業 『明和寮』（多機能型）

（1）就労継続支援事業B型 「ビーサポート」

利用者状況に合わせた居場所づくりを大方針に掲げ、作業の見直し、適正な職員配置、業務分掌等の遂行を目指した結果、平成30年度は今後に向けた礎づくりといえる1年となった。

数年来の課題であり、今後益々必要となる多様化する利用者への対応として職員間連携を重視した。他部署からの現場応援や10月から1月末まで実施した「パンですよ」拡販キャンペーン等、施設全体で職員連携を進めた結果、業務分掌とは異なるも

の、協力体制構築へ手ごたえを得た。作業内容の見直しは遅々としたが、新規事業として計画していた菓子製品包装科は新たに設備を導入し予定通り下半期に稼働を開始した。収入に加えステップアップという事業内での位置づけも明確であり、順調なスタートとなった。収入面では印刷科が中心の役割を果たし事業の下支えとなり、各科も概ね予算達成となった。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
H28年度	77	26	103	平成28年度 平均		55,424
H29年度	79	29	108	平成29年度 平均		47,689
H30年度	78	29	107	平成30年度 平均		46,495
印刷事業	8	2	10	123,549	35,117	76,335
組立事業	26	8	34	91,601	12,544	40,869
自動車部品事業	33	14	47	69,739	10,010	40,896
包装加工事業	8	3	11	116,287	10,010	52,860
菓子製品包装科	3	2	5	114,525	29,147	67,978

※在籍者は期末現在数。工賃は平成28年度までは年間在籍者のみだったが、平成29年度以降は就労継続支援事業B型の基本報酬算定の工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

印刷科	<p>冊子、チラシ、封筒、名刺など編集・印刷作業 総件数 2,382 件：総部数 14,240,309 部 封筒 167 件：1,323,755 枚 冊子・ペラ物：1,394 件 12,909,245 枚 Paper chips のカッティング 合計 24,930 セット お菓子梱包 合計 27,329 セット 自販機設置協力事業所 32 社 設置台数 46 台 ブログ更新 15 回 「パンですよ」拡販キャンペーン 7,000 缶</p>
組立加工科	<p>キッチン取手インサートナット加工及び組付け 391,141 個 タング並べ 10,132,150 個</p>
自動車部品科	<p>ケースフィルター組付け 2,271,265 個 クーラントシール貼り、梱包作業 97,900 個 点火プラグマスキング作業 1,347,928 個 ガス給湯器内ヒータのバネ付け作業 666,573 セット 紙缶箱作成作業 234,366 個</p>
包装加工科	<p>プラスチック真空成型加工 真空成型加工及びスライドブリスター（折り曲げ）加工 スライドブリスター（折り曲げ）加工 合計 4,526,096 個</p>

菓子製品 包装科	イカフライ菓子個包装 628,363 個 ※平成 30 年 10 月～
-------------	-------------------------------------

ウ 入退所

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
H28 年度	9	8	103	100
H29 年度	16	11	108	
H30 年度	10	11	107	

(30 年度退所者)：就労継続 A 型 1 名、就労継続 B 型 2 名(内、1 名はワーク)、生活介護 1 名、有料老人ホーム 1 名、高齢者(障害者)向け住宅 3 名、自宅 2 名、死去 1 名

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	18	52	0	35	13	0	103(15)
H29 年度	22	51	2	34	17	0	108(18)
H30 年度	22	47	1	38	17	0	107(18)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H28 年度	35	2	19	29	12	5	1	103
H29 年度	37	1	18	34	13	4	1	108
H30 年度	41	2	14	32	13	4	1	107

カ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H28 年度	4	13	5	23	28	30	103	49.3 歳
H29 年度	4	12	10	24	31	27	108	49.1 歳
H30 年度	5	15	9	25	26	27	107	47.9 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
100	H28 年度	254	22,410	88.2	88.2%
	H29 年度	255	22,322	87.5	87.5%
	H30 年度	255	23,098	90.6	90.6%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	93	ライトハウス福祉まつり、納涼祭 ボランティア協力の食事会
頭髪カット	2	
クラブ活動支援	72	詩吟、卓球、将棋、陶芸、手芸、フラワー

(2) 就労移行支援事業 「港ジョブトレーニングセンター」

平成 30 年度は、制度改正による報酬改定と、新規に創設された障害者就労定着支援事業を意識した一年間となった。新規訓練生獲得のため養護学校、関係機関との連携はより深めることができたが、新規窓口として普通高校へのアプローチをかけたが今のところ反応はない。第 3 期 3 ヶ年計画を意識し、令和 2 年の定着を目指し新規訓練内容と取り組み内容刷新のために準備を行い、次年度の実施準備を進めることができた。前年度から引き続き目標であったサービス管理責任者を中心としたモニタリングや会議は確実に実施しサービスの質向上を図れた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定 員
H28 年度	11	20	9	2	18
H29 年度	9	8	10	11	14
H30 年度	14	14	10	12	

※B 型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H28 年度	7	3	2	8	20
H29 年度	4	0	1	3	8
H30 年度	11	0	1	2	14

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	0	1	0	7	1	0	9 (0)
H29 年度	0	1	1	7	2	0	10 (1)
H30 年度	0	1	0	7	3	0	10 (1)

() 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	9	0	0	0	0	0	0	9
H29年度	9	0	1	0	0	0	0	10
H30年度	10	0	0	0	0	0	0	10

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	5	2	2	0	0	0	9	22.1歳
H29年度	5	2	1	2	0	0	10	26.0歳
H30年度	5	3	0	0	2	0	10	27.2歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
18	H28年度	253	2,828	11.2	62.2%
14	H29年度	253	2,154	8.51	60.8%
	H30年度	254	2,832	11.2	80.0%

(3) 就労定着支援事業『明和定着支援事業』

平成30年度創設され上半期は状況確認と下準備を行い、10月から明和拠点の新規事業としてスタートした。早期から新規利用者や就職者に個別に説明や案内をする事により、混乱なく進めることができた。

ア 登録および利用状況

	年度登録者	年度解除者	期末登録者	延べ利用実績数
H30年度	9	0	9	29

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H30年度	0	0	0	8	1	0	9

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H30年度	9	0	0	0	0	0	0	9

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H30年度	3	4	1	1	0	0	9	26.0歳

(4) 生活介護事業 「ぷちとまと」

入退所状況としては新規利用者3名、退所者3名と在籍者数に変化はなかった。3か年計画に基づき土曜日に外出行事を実施したこともあり、利用稼働率は前年比10.6ポイント増の99.2%(共生型地域密着型通所介護事業の利用者を加えると99.8%)となった。利用者ニーズに合わせた環境整備を目指し、作業スペースの試験的運用を実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	1	2	28	※12
H29年度	4	4	28	
H30年度	3	3	28	
(30年度退所者)：介護保険（共生型）移行1名、自宅2名				

※生活介護事業・共生型地域密着型通所介護事業で合計した定員数

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	4	22	0	14	0	0	28(12)
H29年度	4	21	0	14	1	0	28(12)
H30年度	3	22	0	15	0	0	28(12)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	0	0	0	3	3	6	16	28
H29年度	0	0	0	4	3	5	16	28
H30年度	0	0	0	3	4	6	15	28

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	8	8	6	2	4	28	35.0歳
H29年度	0	5	11	5	5	2	28	40.3歳
H30年度	2	4	8	7	4	3	28	40.4歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
12	H28年度	242	2,691	11.1	92.5%
	H29年度	242	2,572	10.6	88.6%
	H30年度	242	2,869	11.9	99.2%

(5) 共生型 地域密着型 通所介護『明和寮』

9月から共生型地域密着型通所介護事業を開始し、65歳を迎えた生活介護利用者の移行を行った。共生型地域密着型通所介護事業については現在、利用者の退所に伴い未稼働だが、今後も介護保険移行後の活動の場としてサービス提供を目指す。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H30年度	1	1	0	※12
(H30年度退所者)：自宅1名				

※生活介護事業・共生型地域密着型通所介護事業で合計した定員数

イ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
-	H30年度	98※	29	0.30	2.5%

※共生型地域密着型通所介護事業についてはH30年9月1日に指定を受け、当年度稼働日は98日。H30年11月に1名入所、H31年2月にその1名が退所され、年度末時点の利用者は0名。

2 福祉ホーム 『あかり』『黎明荘』

『あかり』『黎明荘』それぞれの特色を活かしての地域移行に向けた支援の方向性、新たな入居希望者を迎えるための利用者像の設定とルールの再構築を行うため、当年度より「福祉ホームのあり方検討委員会」を設置した。月一回の定例会議の内容を利用者に報告すると同時に、利用者同士で話し合える関係づくりを目的として「福祉ホーム会議」を開催した。利用者から多くの意見がだされ、自らの生活に積極的に向き合っているため今後も継続して開催する。

障害の重度化に伴い、『あかり』から高齢者向け住宅に1名、有料老人ホームに1名それぞれ利用者が移行し、黎明荘から有料老人ホームに移行した利用者が1名であった。

あかりの新規利用者は2名、『黎明荘』の新規利用者は1名。『黎明荘』は地域移行を目標とした利用を条件としていることから地域移行への支援を継続している。

『あかり』『黎明荘』の建物の老朽化は引き続き課題であり、計画的な改修が必要と

なる。

(1) あかり

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
H28 年度	3	3	33	40
H29 年度	5	1	37	
H30 年度	2	2	37	
(30 年度退所者) : 有料老人ホーム 1 名、高齢者(障害者)向け住宅 1 名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	9	24	0	6	2	0	33 (8)
H29 年度	11	26	1	6	2	0	37 (9)
H30 年度	11	25	1	7	3	0	37 (10)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H28 年度	5	1	7	11	6	2	1	33
H29 年度	7	0	7	14	6	2	1	37
H30 年度	8	1	6	13	6	2	1	37

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H28 年度	0	1	0	6	13	13	33	56.8 歳
H29 年度	2	1	1	6	15	12	37	53.9 歳
H30 年度	1	2	1	6	13	14	37	54.8 歳

2) 黎明荘

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
H28 年度	0	0	5	10
H29 年度	0	1	4	
H30 年度	1	1	4	
(30 年度退所者) : 高齢者向け住宅 1 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	1	4	0	0	0	0	5
H29年度	1	3	0	0	0	0	4
H30年度	1	3	0	0	0	0	4

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	0	0	1	2	1	1	0	5
H29年度	0	0	0	3	1	0	0	4
H30年度	0	0	0	4	0	0	0	4

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	0	0	1	4	0	5	53.6歳
H29年度	0	0	0	1	3	0	4	53.0歳
H30年度	0	0	0	1	2	1	4	54.0歳

3 同行援護・重度訪問介護等事業 『みなとガイドネット』

全サービスとも、前年度と比べ活動時間数の大幅な変化はなく維持できた。体調不良や家庭の事情などで活動できないヘルパーがおり、活動時間数の維持は今後の大きな課題である。利用者の高齢化、活動内容の変化にも対応していく必要がある。

事務所内業務は、職員1名の異動により管理者・サービス提供責任者の常駐体制が難しくなった。定期的に情報共有を図ると共に、サービスの質の向上を目指し職員・ヘルパー研修の計画的な開催、充実を目指す。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	33	27	0	7	0	0	67
H29年度	32	26	0	8	0	0	66
H30年度	31	25	0	7	0	0	63

イ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	4	1	9	25	12	7	9	67
H29年度	5	0	10	26	10	6	9	66
H30年度	5	1	10	25	7	6	9	63

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	4	3	3	10	20	27	67	54.0歳
H29年度	4	4	3	10	21	24	66	54.2歳
H30年度	2	5	2	11	16	27	63	52.5歳

エ 活動実績時間数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
重度訪問介護（月平均）	339.0時間	289.5時間	301.0時間
移動支援（月平均）	50.3時間	54.8時間	50.5時間
居宅介護（月平均）	85.6時間	85.9時間	85.6時間
同行援護（月平均）	470.7時間	437.8時間	426.5時間

4 地域活動支援事業 『地域活動支援センター あちえっとほーむ』

当年度は報酬の算定基準の変更に伴い開所時間を15分早め、9時45分開所に変更した（前年度同様に6時間以上算定を確保）。利用時間の変更に合わせ、個別支援計画の変更も行い利用者の意向確認を行った。利用稼働率も3年ぶりに80%を超えたことで収入予算は達成に至った。支出については人件費をはじめ経費の削減に努めたが、送迎車両の入替えや老朽化が進んできた設備の更新が影響し赤字の収支となった。

今後も老朽化してきた設備の更新は必要となるであろうが、次年度は黒字化する見込みを立てることができた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	6	4	106	19
H29年度	8	3	111	
H30年度	11	8(30)※	84	

(30年度退所者)：就労継続支援A型移行1名、自宅5名、死去2名

※（ ）内数値は住所不明、音信不通など3年以上にわたる長期欠席者を本年度より利用登録から除いた。

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	16	65	2	22	8	1	106(8)
H29年度	17	64	2	24	11	1	111(8)
H30年度	13	41	3	22	10	1	84(6)

()内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	1	4	15	16	18	52	106	56.1歳
H29年度	0	7	16	16	20	52	111	54.9歳
H30年度	0	7	9	17	14	37	84	55.6歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
19	H28年度	262	3,659	14.0	73.5%
	H29年度	262	3,862	14.7	77.6%
	H30年度	261	4,004	15.3	80.7%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
講師	112名	音楽、ピアフラワー、点字、太極拳、ヨガ
パソコン	515名	
活 動	289名	
イベント支援	40名	福祉まつり、交流フェスタ、外出訓練

5 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

当年度は報酬改定で定員が厳しく適用され、人員配置基準を満たすための調整を絶えず行った一年であった。低学年の新規利用者も入ったが、長期学校休暇時の利用者が激減している。安定した利用になるように送迎などのサービス内容も検討する。

先々の卒業生を見越して、新規の利用者の獲得を計画的に進める。現在の利用者には、保護者会での意見交換を通じて利用者が楽しめる活動を提供した。

次年度も引き続き人員配置等で厳しい状況が予測されるため、事業所間での連携を深め対応したい。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
H28年度	3	1	42	10
H29年度	8	14	36	
H30年度	5	8	33	
(30年度退所者)：ビーサポート1名、わくわくステップ1名、 他放課後等デイサービス3名、他就労移行1名、他事業所2名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
H28年度	0	15	41	1	0	42(15)
H29年度	0	10	35	1	0	36(10)
H30年度	0	10	31	2	0	33(10)

（ ）内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数：合計 33 名

港養護	南養護	西養護	港南中	港明中	港北中	港楽小
9	6	1	3	1	1	1
港西小	稲永小	西築地小	東築地小	大手小	篠原小	保育園
1	2	1	1	1	1	2
名情専						
2						

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	H28年度	251	2,604	10.4	103.7%
	H29年度	253	2,719	10.7	107.4%
	H30年度	250	2,506	10.0	100.2%

オ ボランティア・講師活動状況

火曜日	一緒にピアノに合わせて歌う	1名 延べ 38名
金曜日	(講師として) キッドビクス(月 2回)	1名 延べ 24名
水曜日	(講師として) 音楽療法(月 2回)	2名 延べ 48名
年間	ツアー・各月の行事参加	4名 延べ 10名

6 放課後等デイサービス 『わくわくステップ』

当年度は活動内容を見直し、就労・生活介護に繋がる体験実習に意欲的に取り組めた。新規利用者もこの1年で徐々に増えた（前年度から+4名）。この体験実習を機会に他部署との繋つながり・関わりも強化でき、次につながる土台作りとする。加えて、保護者との懇談会を実施し、考えていることや悩んでいることを話し合うことができた。次年度も話し合いの機会をより多く持てるように懇談会を進めていく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	4	2	16	10
H29年度	5	4	17	
H30年度	8	4	21	
(H30年度退所者)：就労継続2名、就労移行1名、生活介護1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
H28年度	0	5	15	0	0	16(4)
H29年度	0	4	15	1	0	17(3)
H30年度	0	3	18	1	0	21(1)

() 内は重複障害再掲

ウ 利用者の学校別の人数：合計21名

港養護	南養護	西養護	港南中	東港中	港北中	港明中	名情専	成章小
2	7	2	3	2	1	1	2	1

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	H28年度	260	1,407	5.4	54.1%
	H29年度	260	1,745	6.7	67.1%
	H30年度	250	1503	6.0	60.0%

オ ボランティア・講師活動状況

木曜日	(講師として) 音楽療法(月1回)	1名 延べ12名
-----	-------------------	----------

7 相談支援事業 『明和障害者相談センター』

本年度4月より、「港ワーク障害者相談センター」と統合し、新しい人員体制により、相談員6名（兼務1名）体制で事業を行う（契約件数463名）。各相談員の知識や経験も増えたため、相談員同士が連携する中で様々なケースの対応が可能になり、障害福祉サービス以外の基本相談にも柔軟な対応ができた。

下半期は特定事業所加算Ⅳが算定対象となり収入が増加したことで、年度末には手狭となった事務所機能を『黎明荘』へ移転することができた。次年度は近隣各区基幹相談支援センターのケースを計画的に受け継ぐなど、地域での役割機能を高めていく。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H28年度	310	500	274	34
H29年度	310	457	272	48
H30年度	403	617	420	43

IV 港ワークキャンパス 拠点

障害福祉サービス事業

就労継続支援事業A型

就労継続支援事業B型

福祉ホーム

『港ワークキャンパス』

ライトハウス名古屋金属工場

KAN食品開発センター、かんせい工房

『みなど』

30年4月の報酬改定の影響はさほどなく、ほぼ事業計画通りに着地した一年であった。大体的に施設方針として打ち出した三大方針についての報告は次のとおり。

① コミュニケーションを図る

B型利用者のレクリエーション活動を年間2回（昨年1回）に増加させ、A型従業員の懇親会を日帰り旅行から1泊旅行に変更させ、利用者と職員間とのより充実したコミュニケーション力を図ることが出来た。

② 健康促進につながる活動（スポーツ等）

障害者スポーツ大会前の練習期間を長くし出場選手や職員の本番に向けた士気をあげることができ、結果的に好成績をおさめることが出来た。また、施設内のトレーニングジムの活用を休日にも出来るようにすることにより延べ利用者数の増加に繋げることができた。

③ 癒し空間づくり（時間や場所など）

職員と従業員（利用者）との間においての仕事上で意見交換の場が少なく双方にストレスが溜まる状況であったが従業員（利用者）のリーダー制を導入することにより運営についての意見交換の場が適宜出来るようになり、円滑な事業体制を構築させることが出来た。

1 障害福祉サービス事業 『港ワークキャンパス』（多機能型）

（1）就労継続支援事業A型 「ライトハウス名古屋金属工場」

建築業界でのここ数年の人手不足による工期の遅れや、夏季自然災害の影響による取引先工場の稼働停止などにより、関連する大口取引先への出荷が一時鈍った期間があったが、秋口にはその反動もあり今期予算を達成できた。また新たな取り組みとして6月より実施した施設外就労では下半期より順調に推移し、売上1,000万円以上の成果があった。内部研修では外部の製造会社担当者による品質管理の勉強会を実施し、

職員の品質改善等の意識向上に取り組んだ。職員の負担軽減や利用者スキルアップを目的とした「従業員役職制度」を導入したが、まだ機能する段階ではなく、役割や仕組み作り等を明確にし工場全体が活性化するよう構築する。

① 新規作業の獲得と新商品の開発

金属工場内においては、営業力の強化に努め、2名担当制により顧客先でのきめ細かな対応と情報収集を行い売上増につなげたが、テーパー缶技術を活用し新商品PRをする計画については、受注増の状況や金型費用等のコスト問題があった為、次年度以降の継続検討課題とした。

② 見直しによる利益率のアップ

主要材料であるブリキ板の値交渉を行い年間で約100万円程度の成果が見込まれるようになった(実績としては次年度計上)。また、採算の合わない製品の値上げ交渉も実施したがこの件に関しても次年度の成果見込みとなる。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
H28年度	61	3	64	264,155	66,038	118,602
H29年度	59	3	62	262,982	89,354	125,544
H30年度	58	3	61	268,940	74,529	125,476

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

金属加工事業	ブリキ缶製造：1,561,000缶出荷
施設外就労	複合機解体仕分作業：359,639kg実績 チューナー・操作パネル仕分作業：51,018kg実績 水道メーター解体作業：3,260個実績

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	1	3	64	60
H29年度	1	3	62	
H30年度	3	4	61	
(H30年度退所者)：就労継続支援B型2名、一般2名				

エ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	8	21	3	29	6	0	64(3)
H29年度	8	20	4	27	6	0	62(3)
H30年度	8	20	4	24	5	0	58(3)

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	50	3	7	1	1	0	0	62
H29年度	49	2	6	4	1	0	0	62
H30年度	47	2	5	7	0	0	0	61

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	18	7	17	17	5	64	42.3歳
H29年度	0	16	8	16	17	5	62	43.7歳
H30年度	0	16	8	13	16	8	61	43.3歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
60	H28年度	255	15,203	59.8	99.7%
	H29年度	254	14,801	58.3	97.1%
	H30年度	254	14,053	55.3	92.2%

（2）就労継続支援事業B型「KAN食品開発センター」「かんせい工房」「あおなみキャンパス」

①「パンですよ！（缶入りパン）」

パンの缶詰『パンですよ！』は、賞味期限を5年半に延長したことにより、前年度受注を間際まで受ける事ができたため、年度当初は低調なスタートとなったが、岡山・関西方面、北海道震災で一気に全国的に防災気運の高まりを見せ、結果的には計画を上回る着地となった。10月に本格稼働した「あおなみキャンパス」での製造分が前年よりプラスになった事と、競合他社の機械不良による製造数減少の状況が当施設への要望を高め、年度末までに新たな入札案件も含めて受注が増えた為、例年のない売上を記録した。販売缶数も967,000缶を記録し、この事業の創設時の目標であった年間100万缶も現実になってきている。また、新製品として発売した商品（あずきミルク味・卵不使用プレーン味）を含めラインナップも5種類に増え、様々な要望に対応できる体勢が整った。継続して取り組んでいる地産地消も展示会（農業EXPO）等で新規受注が実現し、次のステップ（6次産業）と考えている防災備蓄への道が少しずつ拓がりを見せている。

②「利用者募集 定員40名から60名へ」

平成30年10月より新たにパン工場を併設した新施設「あおなみキャンパス」を定員数20名でスタートした。（B型全体でプラス20名で定員60名になった。）利用者も24名の方が利用して頂き、パン工場から下請け作業と幅広い作業に対応できる形も出来た。利用者の方々の作業能力の向上や次のステップ（工賃アップ等）が見込め

る施設を強みにし、養護学校や新たなアプローチが出来る形が出来てきた。

③「下請け作業の充実」

あおなみキャンパスが出来たことで、今まで以上に手厚い支援が可能になるため、新たな下請け作業を検討出来るようになってきた。具体的な新たな動きまでは進められなかった。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 28 年度	20	23	43	H28 年度 平均		42,707
平成 29 年度	23	22	45	H29 年度 平均		44,990
平成 30 年度	25	26	51	H30 年度 平均		49,405
パン缶	13	13	26	87,797	24,130	51,580
下請作業	12	13	25	63,112	30,074	45,989

※在籍者は期末現在数。工賃は平成 28 年度までは年間在籍者のみだったが、平成 29 年度以降は就労継続支援事業 B 型の基本報酬算定の工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

パンの缶詰 製造事業	販売缶数 : 967,000 缶 (内製 866,920 缶、外注仕入 100,080 缶)
下請作業	菓子袋詰め作業 (年末年始お土産用等) : 300,000 個 風船袋詰め作業 : 203,400 個 レトルト加工 (どて煮等) : 3,500 個 コンニャク加工 : 4,000 個 物品検品作業 : 105,000 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
H28 年度	10	5	43	40
H29 年度	6	4	45	
H30 年度	8	2	51	60
(H30 年度退所者) : 就労継続支援 B 型 1 名、自宅 1 名				

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	4	9	0	25	6	1	43(2)
H29 年度	5	10	0	24	5	1	45
H30 年度	5	11	1	27	8	1	51(2)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	22	1	7	4	8	1	0	43
H29年度	24	0	7	6	7	1	0	45
H30年度	30	1	4	8	7	1	0	51

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	21	3	5	4	10	43	38.6歳
H29年度	3	21	2	4	5	10	45	40.0歳
H30年度	5	22	2	6	6	10	51	38.1歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	H28年度	254	8,623	33.9	84.9%
	H29年度	254	9,166	36.1	90.2%
60	H30年度	254	10,031	39.5	77.4%

※H30年度は定員数を60に増やした為、利用稼働率が下がる結果になった。

2 福祉ホーム 『みなと』

福祉ホーム会議を3回実施し、利用者の意見を多く聴くことにより満足度向上につながった。またホームの防犯安全対策として、ホーム内通路や出入口に防犯カメラの設置を行い入居者の安心感を更に増やすことができた。

ホーム内の美化活動として、通路床面の清掃活動を利用者・職員と共に行い、入居者自身の日々の清掃への意識付けにつながった。次年度も美化活動強化に取り組み快適な暮らしの提供に努める。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	1	3	15	20
H29年度	3	2	16	
H30年度	0	0	16	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28年度	4	10	1	0	0	0	15

H29年度	5	10	1	0	0	0	16
H30年度	5	10	1	0	0	0	16

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	10	0	2	3	0	0	0	15
H29年度	10	0	2	3	1	0	0	16
H30年度	10	0	2	3	1	0	0	16

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	2	0	3	6	4	15	51.1歳
H29年度	1	1	1	3	6	4	16	50.1歳
H30年度	0	2	1	3	5	5	16	51.1歳

3 地域貢献活動（チームサンキュー活動報告）

地域貢献活動集団「TEAMサンキュー」の活動を、前年度に引き続き地域清掃活動とステージ演出を中心に実施した。また、西部施設全体として『明和寮』と協力し、新しい職員も参加できる体制を作った。次年度から新体制で活動を行う。

① 清掃活動

最寄り公園の「十一屋川緑地遊歩道」の清掃を、従業員と共に3回にわたりで実施した。

6月 1日 職員 2名（草深、中山） 従業員：ワーク3名、明和1名
 10月 4日 職員 3名（橡木 草深 玉川） 従業員：ワーク2名、明和1名
 12月 13日 職員 3名（草深 玉川 森） 従業員：ワーク3名、明和1名

② ステージ演出

- ・西部施設で4月21日に開催した「ライトハウス福祉まつり」のステージ企画でパフォーマンスを披露し、今までの取り組みもアピールした。
- ・外部主催の地域の福祉事業所が集まるイベント「GO!!ふくし」（7月7日、名古屋学院大学 日比野校舎）に参加し、地域へのアピールを行った。

V 緑風 拠点

就労継続支援事業B型

『緑風』

平成 30 年度も土地活用問題を最優先事項として名古屋市と話し合いを進め、当年度末間際になったが、施設整備補助金の交付による新館建設が可能となった。利用者に不都合や不利益のない運営方法や資金面の計画については平成 31 年度も引き続き名古屋市と協議を継続することとなっている。

利用者登録状況については、新規登録が 2 名に留まり、目標の 4 名には達しなかったが、利用登録日の増加、土曜開所日数増とレクリエーションへの参加率が上がり延べ利用者数は 9,000 名を超えることができた。

地域に向けた活動については、学区の民生委員によるお花見会や老人会の食事会に事業所を会場として提供した。また、学区の福祉避難スペースとして福祉避難所の登録を行った。

1 就労継続支援事業B型 『緑風』

当年度は 3 ヶ年計画に沿って、「あなたらしく働く」「高い工賃を目指す働き方」の取り組みを行い、既存取引先の見直しと改善、新規取引先開拓により安定した作業提供と売上増につなげ、平均工賃 10,000 円以上を達成できた。それに伴い、障害福祉サービス基本報酬暫定区分を変更でき、次年度につながる結果も出せた。

また、施設外就労については清掃範囲拡大と利用者増員を行うと共に、利用者個々の「不安」を解消する支援を行い安定したに作業提供に結びついた。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 28 年度	38	7	45	32,151	1,035	7,949
平成 29 年度	36	9	45	30,352	4,479	8,676
平成 30 年度	36	9	45	33,755	7,164	10,265

※在籍者は期末現在数。工賃は平成 28 年度までは年間在籍者のみだったが、平成 29 年度以降は就労継続支援事業B型の基本報酬算定の工賃計算方法を用いた。

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

軽作業科	下請け作業としての年間生産数 くまで組立 15,800 本・ほうき組立 36,200 個 (その他清掃用品 6 種類の組付、加工、袋入れ) DMチラシ 3,000,000 枚・洗濯物たたみ 1,887,102 枚など 施設外作業 (清掃業務) 年間 234 日
------	--

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 28 年度	4	5	45	40
平成 29 年度	11	11	45	
平成 30 年度	2	2	45	
(30 年度退所者) : 就労継続支援 A 型 1 名、就労継続支援 B 型 0 名、法人内他施設 (B 型) 0 名、介護保険施設 0 名、自宅 1 名				

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	1	14	1	25	10	0	45(6)
H29 年度	2	13	1	26	12	0	45(9)
H30 年度	2	11	1	28	12	0	45(9)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H28 年度	18	2	5	12	7	1	0	45
H29 年度	17	3	5	11	9	0	0	45
H30 年度	15	1	5	11	12	1	0	45

カ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H28 年度	1	9	13	12	8	2	45	38.8 歳
H29 年度	1	12	7	11	11	3	45	40.5 歳
H30 年度	1	13	6	11	11	3	45	40.8 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	H28 年度	262	8,656	33.3	82.5%
	H29 年度	258	8,926	34.6	86.5%
	H30 年度	262	9,020	34.4	86.1%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
作業支援	494 名
レク介助	38 名

VI. 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設	『戸田川グリーンヴィレッジ』
生活介護事業	
施設入所支援	
短期入所事業	
通所生活介護事業	木の香
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

利用者の重度化・高齢化、家族の高齢化に伴い多様化するニーズについて、部門毎に対応を進めた。

全国身体障害者施設協議会が「ケアの質を高める取り組み」として進める「個別支援実現にむけたケアガイドライン」（以下「ケアガイドライン」）に沿った支援体制作りを進め、前年度受審した「福祉サービス第三者評価」にて明らかになった課題をもとに改善活動を進め「サービスの質の向上」に取り組んだ。

安心安全な支援体制整備に向け、入所部門では、前年度に引き続き利用者・職員の双方に優しいケアを目指し、リフト等の福祉機器を活用しノーリフトケアを進めた。通所部門では、送迎担当者を対象に安全運転講習を実施した。

職員の防災意識を高める取り組みとして、緊急時に職員が対応できる体制作りのため、業者による消防機器設備説明会を行った。消防避難訓練は年2回、防犯訓練は年1回行っているが、取り組めていない地震や水害対策訓練の次年度実施を目指す。

また、開所より7年が経過し施設の修繕が増加している。設備機器の保守を計画的に行うと共に、設備や備品等の更新に向けて資料集めを中心に更新準備を進めた。

福祉・介護人材確保に向け、働き方改革の時流のもと職員の働き方と利用者支援の質の向上をどう結び付けていくかを、衛生委員会等にて継続的に協議検討を続けてきた。各部署における有給休暇取得状況や残業の実態把握及び課題整理を行い、更なる改善への糸口を探り続けた。多様な働き方が検討されつつも、まずは正規職員確保の動きを優先した結果、一定数の採用に結びついた。更に多様な人材登用に向け、ハローワークや名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンターとのつながりも強めている。

地域交流や地域貢献活動を通じて地域福祉ニーズ把握を行うため「親子クッキング（16名）」、「救命講習会&ランチ会（11名）」、「地域交流音楽会（15名）」を開催し延べ42名の参加があり、好評であったため次年度も継続する。地域と共同の「ミュージックフェア（地域交流音楽会）」の実施に向けて、次年度は戸田川こどもランドにてプレミュージックフェア（利用者音楽発表会）を実施する。地域交流を通して引き続きニーズ調査を行う。

1. 障害者支援施設 『戸田川グリーンヴィレッジ』

(1) 生活介護・施設入所支援事業

「福祉サービス第三者評価」担当職員がリーダー職員に周知を行い、支援力の向上、権利意識の向上を図った。しかしながら、利用者満足度調査の結果を踏まえると支援の質の向上の余地はある。次年度以降は家族支援や個別支援等の支援力向上を目指す。

ケアガイドライン委員会の取り組みにより、現在の施設支援の課題集約を行った。担当職員の意識は向上したが、職員個々の支援力や利用者の権利向上までには至らなかった。次年度は取り組みを事業所全体に周知し支援の質の向上に努める。

リフト等の福祉機器を活用し、利用者と職員双方の負担軽減や安全面に配慮した支援を行った。支援力向上委員会とリフトリーダーが連携し安全に移乗動作を行う研修を個別に実施し、移乗動作の手技を確認した。また、ヒヤリハットが発生した際に都度個別指導を行うことで移乗動作による事故を大幅に減らすことができた。

身体機能の低下から長期入院される利用者も数名いたが、看護部門と連携を図りケアに努め目標利用稼働率 95%は達成できた。

外部の『口腔ケア研修』・『虐待防止研修』・『個別のリフト研修』・『視覚障害者研修』で学んだ職員が講師となり、支援員勉強会を実施し全体の知識を深めた。

ボランティア 3 団体を受け入れ、日中活動を行った。普段、活動に参加されない利用者も概ね参加され地域の方との交流を図った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 28 年度	4	3	40	40
平成 29 年度	3	4	39	
平成 30 年度	3	2	40	
(30 年度退所者)：死去 1 名、長期入院 1 名				

イ 障害別状況 (年度末時点) () 内は重複障害再掲

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
脳性まひ	21	20	21
脳障害後遺症	5	6	7
頸髄損傷	2	1	1
二分脊椎	2	2	2
化膿性脊髄炎	1	1	1
視覚障害	3	3	3
リウマチ	1	1	0
筋ジストロフィー	2	2	2
パーキンソン症候群	1	1	1
脊髄小脳変性症	1	1	1
外傷による体幹機能障害	1	1	1

知的障害	(24)	(22)	(25)
精神障害	(2)	(2)	(2)
合 計	40 (24)	39 (24)	40(27)

*最も顕著な障害で分類

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H28年度	0	0	0	0	1	8	31	40
H29年度	0	0	0	0	1	7	31	39
H30年度	0	0	0	0	0	8	32	40

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H28年度	0	2	3	11	15	9	40	51.9歳
H29年度	0	3	2	9	13	12	39	52.4歳
H30年度	0	3	1	9	15	12	40	52.8歳

オ 生活介護 利用状況（短期入所利用者の日中利用含む）

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	H28年度	312	12,263	39.3	98.3%
	H29年度	313	12,186	38.9	97.3%
	H30年度	314	12,170	38.8	96.9%

カ 施設入所支援 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	H28年度	365	14,039	38.5	96.2%
	H29年度	365	14,048	38.5	96.2%
	H30年度	365	14,062	38.5	96.3%

キ ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
パソコン講座	30回	2名	30名
組紐	24回	8名	129名
鍋物会	1回	14名	14名
歌謡舞踊	1回	2名	2名
演芸会	1回	2名	2名
大正琴演奏会	1回	7名	7名

音楽会	2回	3名	3名
地域交流音楽会	1回	34名	34名
サマーボランティア	20回	5名	25名
そば打ち	1回	3名	3名
園芸	52回	1名	52名
裁縫	5回	1名	5名
合計	139回	82回	306回

(2) 短期入所事業

新規登録者 11 名中、利用につながった方が 8 名、そのうち継続利用 6 名、ショートステイに向けて体験通所利用 2 名となった。新規の利用希望者も継続してあり、前年度よりも、「見学→体験通所→ショートステイ利用」へとスムーズに移行できた。地域のショートステイ利用の需要は高い中、入所者の介助量・支援量も増加傾向である。今後は全体のバランスを見極めながらより多くの方が利用できるよう調整を行う。また、緊急ショートステイ受け入れに備え、相談支援事業所・福祉事業所との連携を引き続き強化する。受け入れ時には各部署が共通理解の下、支援できるようマニュアルの活用方法の検討を行う。

ア 短期入所及び通所利用状況

	利用人数	延べ 利用日数	1日平均 利用者数	利用 稼働率	通所利用 人数	通所利用 延べ日数
H28年度	610	2,557	7.0	87.6%	45	46
H29年度	646	2,757	7.6	94.4%	47	47
H30年度	626	2,773	7.5	95.0%	37	37

(3) 通所生活介護事業 「木の香」

平成 30 年度は新規利用者 6 名（内訳：特別支援学校卒業生 2 名、卒業生以外 4 名）の受け入れと既存利用者の利用日数を増やす取り組みを行った。しかし、家庭都合などにより 3 名の契約解除者と、11 月～3 月にかけて体調不良による長期休みの利用者が複数名おり、年間利用稼働率 66.0%（1 日平均 6.6 名）にとどまった。次年度の課題として、医療行為の必要な対象者の受け入れや営業方法の検討を行う。

職員の資質向上として、8 月の他事業所見学会に職員 2 名、10 月の法人内関連事業所研修に職員 3 名が参加し業務改善を行った。

利用者支援の向上として、9 月より送迎時間の変更、10 月より入所利用者との合同日中活動の実施、また入浴サービスを拡大した。また、運転業務を担当する職員同士でお互いの運転技術の確認や送迎時の注意点を共有し安全な送迎に努めた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 28 年度	0	1	18	10
平成 29 年度	4	3	19	
平成 30 年度	6	3	21	
(30 年度退所者)：介護保険移行 1 名、他県引っ越し 1 名、自己都合 1 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H28 年度	1	15	0	15	2	0	18(15)
H29 年度	1	18	0	16	2	0	19(18)
H30 年度	2	21	0	17	2	0	21(21)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H28 年度	0	0	0	1	3	1	13	18
H29 年度	0	0	0	1	2	3	13	19
H30 年度	0	0	0	0	2	3	16	21

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H28 年度	1	4	3	6	2	2	18	38.6 歳
H29 年度	3	3	3	6	2	2	19	38.2 歳
H30 年度	2	6	3	6	3	1	21	37.6 歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	H28 年度	234	1,207	5.2	51.6%
	H29 年度	243	1,568	6.5	64.5%
	H30 年度	239	1,577	6.6	66.0%

(4) 各部門報告

① 看護部門

看護職員の体調不良により一定期間不在となったが、看護部門で役割分担の枠を取り払い、入所・通所支援の業務協力を行うことができた。また緊急時を含む通院支援を他部署と連携しながら行った。

医療的ケアの体制整備について生活支援員中心に看護教育を行った。ノロウイルス対策については、感染対策委員会に引き継ぎ、委員会からノロウイルス対応について

各支援員に周知した。経管栄養等の研修を受講した生活支援員へのフォローアップ教育は、薬の注入ができないなどの課題もあり進められなかった。

② セラピスト部門

施設入所者へのリハビリテーションは理学・作業療法士が連携し、日々変わるニーズや身体状況に対し他職種連携・関係部署・委員会を活用し解決や打開策を常に考え支援ができた。

自然排便を目的とする「腸活」では、他部署と連携し、勉強会とマッサージを平行して行った。次年度はより自然排便を促せる活動を目指す。

リハビリテーション加算のうち、7割がリハビリテーション加算Ⅰ(高い加算)へ移行し、収益アップとなった。

音楽療法の取り組みでは、個別・集団音楽療法が充実し個別支援計画にも反映できた。7月に利用者音楽発表会を実施し、利用者参加数も前回の6名から12名と倍増した。次年度は、音楽発表希望者が増えているので外部での発表会を目指す。

③ 給食部門

年間9回の行事食に担当職員を設け実施した。担当が毎回変わることでいつもと違った雰囲気作りの新しい調理企画を行うことができた。また各調理員が企画立案し、他部署調整を行う事で、職員の成長にもつながり次年度も継続して実施する。

食育に関しては、栄養士が日中活動で食育指導を実施。6月には地域貢献交流委員会とともに戸田川こどもランドで食育と親子クッキング教室を実施した。また食堂や廊下に食育につながるポスターを毎月掲示したことで利用者との会話も増え、ニーズの把握につながった。

全職員が非常食にアクセスできるよう非常食フローチャート作成の見直し、メニューの一新、保管場所の整頓を行い炊き出し訓練を実施した。次年度も引き続きマニュアル整備を行う。

④ 相談員部門

社会生活力プログラムを生かして権利擁護や就労など様々なテーマについて話し合い、利用者自身の想いを発信したり他者の考えを知ることを通し、自分の生活や生き方について考えられるよう支援した。引き続き、意思疎通が困難な利用者にも活動参加を促し、テーマについて段階的に理解が深められるよう働きかける。

家族の高齢化もあり家族環境等に変化のある利用者が多く、状況の把握や必要な支援の検討を行った。次年度も継続して取り組む。

ボランティア団体の日中活動への協力が得られた。利用者の声を聴きつつ、新規ボランティア内容の開拓や、より深く関わられるような働きかけを行う。

⑤ 事務部門

事業ごとの利用稼働率を意識し収入の分析を行う仕組みを構築し、施設経営委員会の中で検証を行い、次月につなげる取り組みを行った。経費では、前年度同様に推移しているが修繕は年々増加傾向にあり、採用に係る費用も前年より増加した。

また、利用者の家族の寄付により、共有部分の防犯フィルム施工を行った。更に玄関前の駐車場の事故防止のための安全対策や掲示板のリニューアルも行った。

職員のワークバランスの推進・定着に向け効率的な業務遂行のため、休憩時間・年次有休休暇の取得を目指す取り組みを衛生委員会で進めた。

⑥ 喫茶部門

11月より更なる応援体制も得られ利用者とのコミュニケーションを図ることで利用者の増加につながった。

⑦ 環境部門

利用者の生活パターンを重視し居室、共有スペースの衛生管理を行い安全な住環境整備を行った。

2 指定相談支援事業 『戸田川障害者相談センター』

求められる利用者支援力は年々複雑化しており、相談員に求められる知識、技術、それに価値観についても高いものが求められている。また「名古屋ライトハウス」という法人への期待により、依頼されるケースもある。そういった期待に応えるため、自立支援連絡協議会はじめ、外部内部の研修や検討会に積極的に関わり力量向上に努めた。法改正により相談支援の提供プロセスに多少の変化があったものの、適切に情報収集し対応した。

年度途中、主となる相談支援専門員の産休、育休が必要となった。専任相談員の確保が必要であるにも関わらず、なかなか後任が見つからず、やむなく近隣の相談支援事業所に担当ケースの移管を相談し、受け入れていただいた。おかげで利用者には大きな負担を掛けずには済んだ。その後、後任相談員の入職もあり、サービス提供が行える状況は維持できた。この引継ぎの間、契約利用者数が一時減少したことが、利用計画作成、モニタリング件数の減少として現れた。

主となる相談支援専門員の産休、育休があり職員確保の課題があったものの、適切な後任者の入職があり、サービス提供が行える状況を維持できた。求められる利用者支援力は年々複雑化しており、相談員に求められる知識、技術、それに価値観についても高いものが求められている。自立支援連絡協議会はじめ、外部内部の研修や検討会に積極的に関わり力量向上に努めた。法改正により相談支援の提供プロセスに多少の変化があったものの、適切に情報収集し対応した。サービス等利用計画の作成は年間107件（目標90件）、モニタリングは年間157件（目標150件）の対応となった。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
H28年度	120	189	141	5
H29年度	120	189	105	6
H30年度	107	157	104	3

3 障害者就業・生活支援センター事業

『海部障害者就業・生活支援センター』

事業計画をもとに行動計画にあげた4つの取り組み（①地域や関係機関との連携・情報共有の枠組みの検討 ②記録や登録情報の管理 ③アセスメント事業の準備・実施 ④知的・精神障害者の方への就業交流会の実施）を柱に活動し、毎月のミーティングにおいて進捗確認、情報共有を行った。すべての取り組みにおいて一定の成果を残せた。次年度以降も継続して取り組み、更にブラッシュアップを進める。

就職者数や実習件数についても目標値を達成できたが、就職支援・定着支援において対応の難しいケースが増加し、個々の相談員の負担も大きくなっている。関係機関との連携、センター内の相談員の連携、ハローワーク・企業との連携、3つの連携を強化することで登録者により幅広い選択肢を提供し、よりよい方向性を一緒に考えていけるセンターを目指す。

ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数（手段別） (件)

センターへの来所（本人のほか、家族等も含む）	526
電話・Fax・E-mail（本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む）	1,469
職場訪問（定着支援のほか、職場実習支援を含む）	539
家庭・入所施設への訪問	80
その他 ハローワークへの同行(登録支援、求人検索、失業保険申請手続き)、 受給者証手続き、履歴書作成、事業所見学、年金相談、手帳取得、通 院同行、支援者会議等参加等	284
合 計	2,898

イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数（内容別）※（ ）内は前年度実績（件）

		身体	知的	精神	発達	難病	高次脳	その他	合計
平成 28 年度		667	1,265	1,183	717	5	55	550	4,442
平成 29 年度		485	1,259	1,422	920	18	66	361	4,531
平成 30 年度		202	926	1,408	206	18	42	96	2,898
H 30 年 度 内 訳	就職に向けた 相談・支援	118 (485)	348 (560)	703 (811)	115 (551)	13 (14)	30 (30)	61 (221)	1,388 (2,672)
	職場定着に向 けた相談・支援	70 (84)	371 (524)	496 (432)	75 (322)	4 (0)	10 (29)	17 (73)	1,043 (1,464)
	日常生活、社会 生活に関する 相談・支援	6 (1)	41 (21)	35 (34)	3 (4)	0 (0)	0 (1)	8 (15)	93 (76)
	就業と生活の 両方にわたる 相談・支援	8 (15)	166 (154)	174 (145)	13 (43)	1 (4)	2 (6)	10 (52)	374 (419)

※ 平成 30 年度より労働局の相談支援件数の計上について、①基準は、1 日単位の支援対象者に対する相談・支援の実施件数を基本とする。（以前は、1 日に複数回の支援があった場合はすべて計上） ②本人・家族に対する直接の支援を計上するものであり、仮に支援対象者のことについて関係者で相談した場合であっても、本人・家族が不在であれば当該項目には計上しない。（以前は企業や関係機関との相談も登録者の支援に関わるものとして計上）と変更があった。そのため全体の相談支援件数が大きく減少した。

また、発達障害の件数については、発達障害で精神保健福祉手帳を所持している登録者を精神でカウントすることに変更したため減少した。（発達は精神保健福祉手帳を所持していない登録者を対象とする）

VII 名古屋盲人情報文化センター 拠点

視覚障害者情報提供施設 『名古屋盲人情報文化センター』

近年、センター全体として「連携」をキーワードに活動を展開しているが、平成 30 年度においては、名古屋市総合リハビリテーションセンターをはじめ関連機関と協同した講習会やシンポジウムの開催、スマートサイトを介した眼科医との情報共有、盲学校や視覚障害者団体への訪問販売および説明会の実施など、関連団体との連携を強める活動ができつつある。

また、地域への視覚障害に関する広報・啓発活動を目的として、センター見学の受入・講師の派遣等を実施した。

事業活動におけるトピックスとしては、点字出版事業において点字電話帳作製や年度を跨いだ統一地方選挙があり、通年を通して多忙な年度となった。

平成 30 年度の新たな取り組みとして 4 月から開始した歩行訓練事業は、ニーズに沿って着実に実績を上げることができたが、同時に訪問訓練希望が大半を占めるなど次年度以降のサービス提供方法の課題も明確となった。

建物・設備については、建物が築 50 年以上であり老朽化が進んできており、書架設備にトラブルが発生するなどの不都合が生じはじめている。

これまで継続的に検討を続けている「ボランティアの確保・養成を目的とした交通費支給」については、ボランティアの多様性や経費などの問題から最終的な結論を出す事ができなかった。「何がボランティアの確保・養成に繋がるのか」をふまえ、次年度上半期を目処に方向性を出すことになっている。

1. 職員・ボランティア人数

	職員		ボランティア			
	職員総数	うち 視覚障害者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
H28 年度	19	5	127	110	68	305
H29 年度	21	6	126	101	63	290
H30 年度	24	6	123	103	58	284

2. 寄附件数

	個人	団体	～10 万円	10 万円～
H28 年度	36	1	35	2
H29 年度	34	1	35	0
H30 年度	27	1	25	3

3. 図書館事業部

(1) 生きた書棚のための蔵書管理

貸出用の点字図書の整理を行い書庫にスペースを設けた。未整理の厚生労働省委託図書の書誌入力および書架への整理に着手したがあまり進捗せず、次年度への持ち越しとなった。

(2) 「愛盲報恩会視覚障害者文庫」の本格的な運用

- ・平成 28 年度、29 年度に新規購入した図書 60 タイトルの書誌入力を行った。
- ・書庫に所蔵されている約 3,000 タイトルの書誌不足分の入力方法を整理し、下半期から着手した。次年度以降も引き続き行う。
- ・視覚障害関連書籍を新規で 55 タイトル購入した（内 1 タイトルは寄贈）。研究書から視覚障害を取り扱った漫画本まで多彩な内容となった。

(3) 発達障害等、視覚表現の認識に困難のある方への情報提供拡充

① B 会員 100 人プロジェクト

読書障害のお子さんを対象に「キーボード体験会」を月 1 回ペースで実施。夏休みを中心に 9 回合計 19 人が参加し、その内、15 人が利用登録を行う。（年度末登録者総数 50 人）

② 読者交流会の実施

30 年近く録音制作してきた「小説現代」が平成 30 年秋、休刊することとなり「ファンの集い」を開催した。現役ボランティア、利用者に加え、旧職員、旧制作ボランティアも加わり総勢 27 名の参加となった。

(4) プライベート資料の制作、および対面読書・代筆・墨訳サービス、プレクストーク個人講習の実施

① プライベート資料の制作

② 対面読書、代筆・墨訳サービス、プレクストーク個人講習

(5) 点訳者・音訳者等、情報支援者の育成と研修

① 点訳養成講習会：前年度の入門講習受講者を対象により実践的な点訳技術の習得を念頭にフォローアップ講習を週 1 回実施（下半期は隔週）。3 月末で 6 名が終了し内 5 名が点訳活動を 4 月より開始予定。

② 音訳養成講習会：9 月～翌年 3 月で養成講習を実施。受講者は 10 人。3 月末で 9 名が終了し、内 8 名が 4 月より活動開始予定。

※以下の表中の A 会員とは「視覚障害者」、B 会員とは「視覚表現の認識に困難のあるもの」である。著作権法第 37 条第 3 項の規定によりいずれも当施設の利用サービス対象者。

①蔵書数

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		CD図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H28年度	9,103	35,614	5,340	32,517	7,879	7,881
H29年度	9,493	37,101	5,325	32,417	8,085	8,088
H30年度	9,992	38,782	5,324	32,419	8,513	8,516

②新規制作図書

ア 蔵書

	点字図書		CD図書
	タイトル数 (内リクエスト)	冊数	タイトル数 (内リクエスト)
H28年度	295 (14)	1,925	174 (61)
H29年度	293 (11)	1,147	165 (61)
H30年度	327 (16)	1,187	146 (57)

イ 雑誌

	点字		録音 (CD)	
	月刊	隔月	月刊	隔月
H28年度	2種類 24タイトル	1種類 6タイトル	6種類 72タイトル	4種類 24タイトル
H29年度	2種類 24タイトル	1種類 6タイトル	6種類 72タイトル	4種類 24タイトル
H30年度	2種類 24タイトル	1種類 6タイトル	7種類 70タイトル	4種類 24タイトル

ウ プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
H28年度	49	81	8
H29年度	28	35	9
H30年度	32	43	6

エ サピエデータアップ状況

	点字データ		デージーデータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
H28年度	315	2,028	241	1,835時間 11分
H29年度	305	1,159	232	1,833時間 29分
H30年度	339	1,199	212	1,651時間 53分

③ボランティア養成

ア 点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ [°] 講習	英語点訳
H28年度	—	1講座 38回 延べ 256名	1講座 22回 延べ 110名
H29年度	1講座 21回 延べ 174名	—	—
H30年度	—	1講座 34回 延べ 204名	1講座 19回 延べ 95名

イ 音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ [°] 講習	校正者 養成講習 (フォローアップ [°])	デザイナー編集者 養成講習
H28年度	22回 226名	4回 59名	1回 5名	5回 33名
H29年度	22回 207名	5回 56名	—	—
H30年度	22回 197名	5回 57名	1回 2名	—

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレクストーク操作講習
H28年度	4回 140名	32回 772名	6回 49名
H29年度	4回 129名	32回 763名	6回 47名
H30年度	4回 148名	31回 744名	5回 32名

④貸出

ア 登録者数

	個人 (内・サピエ)	団体
H28年度	A会員 2,185 (570) / B会員 22 (12) 合計 2,207 (582)	526
H29年度	A会員 2,165 (569) / B会員 24 (11) 合計 2,189 (580)	519
H30年度	A会員 2,236 (595) / B会員 39 (18) 合計 2,275 (613)	520

イ 利用者数

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
H28年度	232	3,182	148	1,086	761	31,371
H29年度	236	3,225	131	910	736	30,862
H30年度	223	3,183	110	744	698	29,349

ウ みちしお購読者数

	点字	デイジー	墨字	メール 分割	メール 添付	総数	実数
H28年度	344	442	396	283	52	1,517	1,376
H29年度	326	413	375	276	60	1,450	1,315
H30年度	323	409	413	286	72	1,503	1,364

エ 資料貸出数

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H28年度	3,182	6,725	1,086	4,230	31,371	31,397
H29年度	3,225	6,540	910	3,317	30,862	30,904
H30年度	3,183	7,177	744	3,725	29,349	29,404

オ サピエからのオンラインリクエスト数（サピエ上での図書注文システム）

	リクエスト 送信数（施設）	リクエスト 送信数（個人）	リクエスト送信数 （施設・個人合計）	リクエスト受信数 （施設・個人合計）
H28年度	1,391	2,085	3,476	6,156
H29年度	1,283	1,788	3,071	5,923
H30年度	1,178	1,945	3,123	5,618

カ コンテンツ（点字データ）利用状況集計

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
H28年度	13,552	53,177	209	22,595
H29年度	28,538	127,732	186	41,536
H30年度	12,595	48,591	191	21,771

キ コンテンツ（音声デイジー）利用状況集計

	再生 タイトル数	再生 時間	再生 実利用者	再生 延べ 利用者	ダウン タイトル数	ダウン 時間	ダウン 実利用者	ダウン 延べ 利用者
H28 年度	11,244	11,056 時間 29分	162	30,185	26,970	214,174 時間 10分	385	146,355
H29 年度	11,143	16,746 時間 53分	164	29,045	27,148	211,312 時間 41分	378	156,294
H30 年度	10,795	13,670 時間 18分	166	29,241	27,006	208,443 時間 7分	398	157,636

ク サピエのデイジーオンライン（サピエ上の図書データ提供サービス）

	A会員		B会員		合計	
	実利用者数	登録タイトル数	実利用者数	登録タイトル数	実利用者数	登録タイトル数
H28年度	3	5	0	0	3	5
H29年度	4	19	0	0	4	19
H30年度	3	3	0	0	3	3

⑤情報提供数

	ホームページ 訪問者数	テレホン サービス	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メールマガジン たこ通信	メールマガジン ほっと タウンナビ
H28年度	11,842件	975件	32名	9回 237名	265件	136名
H29年度	12,045件	804件	32名	8回 272名	242件	146名
H30年度	23,872件	826件	31名	6回 188名	226件	152名

	点字出力 サービス	対面読書サ ービス	代筆・墨訳サ ービス	利用者向け プレストーク 個人講習	利用者向け プレストーク 操作体験会
H28年度	34,752枚	2件	15件	4回 4名(4名)	—
H29年度	34,848枚	2件	12件	4回 4名(3名)	—
H30年度	55,063枚	0件	19件	2回 2名(2名)	—

() 内実人数

4. サービス事業部

(1) 社会参加・活動支援

点字触読定期学習会を毎週1回、また、社会生活力を高め、生活を豊かにするための情報提供・学習の場である、「MAJ講座」を月3回程度開催した。MAJは対象の領域を広げ1講座の教室も複数にして参加の機会を増やした。MAJ(みんなあつまれ じょうぶんへ)の名の通り、当センターへの集客イベントとしての役割、利用者への情報提供・レクリエーションの場としての役割を果たした。

また、継続して相談支援を実施するとともに、中途失明者緊急生活訓練事業(補助事業)において点字学習以外に「料理・お菓子教室」、「ピアカウンセリング講座」「生け花教室」を実施した。

①MAJ(みんなあつまれ情文へ)講習回数

	回数	延べ人数
H28年度	36回	157名
H29年度	41回	205名
H30年度	40回	161名

②相談支援件数

	相談支援		合 計
	継続支援(件)	新規支援 (件)	
H28年度	88	100	188件 (実人数 105名)
H29年度	86	81	167件 (実人数 88名)
H30年度	51	85	136件 (実人数 92名)

	生活	コミュニケーション	就労	学業	ピアカン	家族	ロービジョン	移動	その他	計 (件)
H28年度	63	14	12	0	84	10	1	12	32	228
H29年度	59	16	22	1	33	10	2	12	26	181
H30年度	59	16	10	1	53	8	1	9	12	169

※相談内容によって複数の項目でカウント

③中途失明者緊急生活訓練状況

	点字触読指導				料理・お菓子教室	
	回数	人数	うち新規	自主学习	講座数	延べ人数
H28年度	44回	17名	7名	15名	11回	53名
H29年度	46回	19名	6名	13名	11回	54名
H30年度	45回	24名	10名	13名	11回	43名

(2) 用具斡旋販売事業

視覚障害者の毎日の生活が豊かで便利になるような小銭入れ、パスケース、計量カップ等の新商品の開拓・紹介を積極的に行った。利用者へ補装具の制度・用具商品説明を丁寧にわかりやすく行うとともに、利用者の居住地域に用具を紹介・説明できる社会資源を増やすことを目的として、関係機関向けの用具・点字出版・図書館サービス説明会を開催し（6年目）、広く周知に努めた。

訪問販売では、これまでの盲学校、光和寮などの法人内施設や名古屋市総合リハビリテーションセンター等の関連施設に加え、地域の視覚障害者サークルや患者団体のイベントで当事者への用具の販売・情報提供を行った。

①用具斡旋販売事業収入

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
収入 (円)	40,710,112	44,979,988	47,103,708

②読書支援機器販売台数

	ブックストア (録音・再生) PTR2・3	ブックストア (再生専用) PTN2・3	拡大読書器	小型ブックストア PTP1・リンクブック
H28年度	44	28	61	34
H29年度	14※	49※	65	37
H30年度	54	37	75	47

※PTR2・PTN2は平成29年2月販売終了。PTR3は平成30年6月、PTN3は平成29年8月販売開始。

③歩行・情報支援機器販売台数

	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
H28年度	385	ネットリーダー(26)	PC-Talker(46)	MyBookⅢ(13)
H29年度	404	ネットリーダー(36)	PC-Talker(33)	MyBookⅢ(7)
H30年度	408	PC-Talker(37)	ネットリーダー(27)	MyBookⅢ(14)

(3) IT訓練支援

パソコン・スマートフォンの個人講習や相談に積極的に応じるとともに、IT活用の情報発信・体験会活動も行った。

就学支援では、長期休み期間を中心に盲学校生徒・大学生の個人指導に取り組んだ。

就労支援として、名古屋東ジョブトレーニングセンター(光和寮就労移行支援事業)と連携し、1名の方の一般就労に結びつけることができた。障害者職業センターの雇用管理サポーター、障害者職業能力開発校の委託訓練相談を行った。

外部との連携として、名古屋市総合リハビリテーションセンター、名古屋市視覚障害者協会、NPO 法人タートル、地域ボランティアグループと協力して相談支援・講習会・シンポジウムを開催するとともに、日本盲人会連合総合相談室の相談員、アビリンピック愛知大会の競技委員を務めた。

IT訓練支援の内訳

	相談(延べ人数)	個人指導(延べ人数)	集団指導(延べ人数)
H28年度	982	218	50
H29年度	773	241	134
H30年度	905	458	118

(4) 地域支援

引き続き小中学校等の福祉実践教室をはじめ、ガイド・点字体験、施設見学などの対応を行うとともに、社会福祉協議会等の関係機関が開催する関連講習会等に職員・ボランティアを派遣し、地域の視覚障害者に関する啓発活動を行った。

講師派遣・見学件数

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高等学校	その他施設	計
H28年度	6	16	22	1	11	12件 97名
H29年度	6	22	28	5	18	23件 165名
H30年度	12	29	41	3	28	31件 191名

(5) 歩行訓練事業

平成30年4月より本格的に事業開始となり、この1年間だけでも多くの方に訓練を行い、修了者は41名となった。

訓練ニーズとしては、訪問での訓練割合が75%を越えており、来館での訓練よりも、現地での訓練を希望される方が非常に多かった。また、訓練内容の傾向として、ルートファミリーアライゼーション（例：ある地点から特定の場所へ行くまでの歩行ルートを構築する訓練）が全体の7割ほどを占め、実践的で実用的なニーズが高かった。

当センターにおける歩行訓練は、名古屋市総合リハビリテーションセンター視覚支援課との連携により、1契約5回と訓練の回数制限を設け、概ねの方がその範囲内で自宅から最寄り駅、かかりつけの病院や施設通所等への単独歩行が可能となり、現在実際に利用されている。当事者の行動範囲の拡大、QOLの質の向上に寄与することができた。なお、白杖の振り方などの基本的な訓練のニーズは3割ほどに留まっているが、階段昇降のニーズは高かった。

また、名古屋市立大学病院アイセンターで3か月に1回、眼科三宅病院では月に1回ロービジョン外来へ赴き、歩行訓練の他、必要な情報提供を継続的に行っている。

歩行訓練実績

	相談件数	歩行訓練実施延べ回数	修了者数
平成30年度	98件	250件（来館59訪問191）	41名

5. 点字出版事業部

平成30年度は、3年に1度の点字電話帳4種の製作を通年かけて行った。また、部内に設けた3つのワーキング・グループを機能的に活用し、平成31年4月実施の統一地方選に向けた準備や、名古屋市の点字区版広報の全区発行への調査、オリジナル出版物・点字企画商品の製作など、活発に取り組んだ。

既存出版物では、月刊誌「やまびこ」の購読者数の維持・拡大を目的に、1か月のお試し購読の周知を図り、平成31年4月より実施する準備を進めた。また、より読みやすい雑誌を目指して、1月号よりレイアウトの一部を変更した。

点字企画商品は、これまで主力の点図シールやクリスマスカードなど季節商品が多かったことを踏まえ、夏仕様のシールを新たに販売開始するとともに、点図入り祝儀袋・香典袋など、通年販売可能な商品作りに取り組んだ。

製品単価・資材管理方法の見直しとしては、タクシーシール、名刺印刷・サインなどの単価の再検討、フォーム紙を他部署と共同で管理し、業務の効率化を図った。

(1) 点字出版事業収入

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
収入 (円)	61,046,842	54,843,000	55,989,531

(2) 点字出版物製作

①オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	点字企画商品 (触図カード、年賀状点図シール、一筆箋、ポチ袋)
H28 年度	955 冊	7 タイトル	0 タイトル	1,927 枚
H29 年度	967 冊	37 タイトル	114 タイトル	1,504 枚
H30 年度	946 冊	8 タイトル	20 タイトル	1,859 枚

②受注製作物 (定期刊行物・点字教科書)

	名古屋市 (広報なごや・ 市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H28 年度	182,146 枚	9,918 枚	46,492 枚	—
H29 年度	163,705 枚	10,213 枚	37,628 枚	—
H30 年度	153,384 枚	12,943 枚	25,542 枚	1,135 枚

③その他受注作製物

	名古屋市 はじめ 市町村 (行政資料等)	施設・団体・ 一般企業	選挙情報 (名簿・公報 ・投票用紙)	公共料金明細 (電気・ガス・水道)	点字名刺
H28 年度	18 件 32,992 枚	84 件 168,535 枚	24 件 254,539 枚	8,452 枚	186 名 29,653 枚
H29 年度	37 件 63,323 枚	75 件 90,314 枚	54 件 110,632 枚	7,134 枚	241 名 32,576 枚
H30 年度	58 件 68,453 枚	86 件 269,621 枚	49 件 52,894 枚	5,862 枚	287 名 34,895 枚

※H30 一般企業の制作物に電話帳があり枚数が突出している

④音声版受注作製物 (デ→デイジー・音楽CD版、カ→カセットテープ)

	名古屋市 (広報なごや・市会 だより)	その他 名古屋市	施設・団体・ 一般企業	選挙公報
H28 年度	デ 4,689 枚 カ 2,465 本	デ 32 枚 カ 539 本	デ 711 枚	2 選挙 デ 618 枚 カ 313 本

H29年度	デ 4,774 枚 カ 714 本	デ 593 枚 カ 137 本	デ 12 枚	2 選挙デ 3,729 枚 カ 1,916 本
H30年度	デ 5,062 枚 カ 1,574 本	デ 801 枚 カ 1,157 本	デ 480 枚	2 選挙デ 1,193 枚 カ 755 本

(3) 点字技術支援（点字サイン・UV加工等）

	点字案内板・ プレート	鉄道駅構内 触図案内板	鉄道駅 運賃表	監修	UV加工
H28年度	2,909 枚	14 駅 53 枚	1 駅 1 冊	—	315 点
H29年度	3,810 枚	0 駅 5 枚	3 駅 4 冊	—	284 点
H30年度	1,079 枚	4 駅 15 枚	5 駅 5 冊	24 枚	491 点

6. 利用者及び地域住民との交流事業

5月に「第15回視覚障害者のための機器展示会」を開催。名身連福祉センターを借用して実施したことにより、多くの業者・事業所を招待することができ、来場者も約450名と今までにない多くの利用者が来場した。

8月上旬には地域貢献につながる一歩として、港楽小学校の生徒を対象にイベントを計画。先生の協力を得ながら、開催準備を進めたが、開催時期・広報活動などの問題により参加者が集まらず次年度へ延期した。

10月末に開催した港区ふれあい広場には職員が実行委員として参加し準備を進めるとともに、当日は「ともの会」の協力も得て点字体験・録音体験を実施した。

3月21日にはバス交流会を初めて祝日に実施。職員と利用者・ボランティアとの貴重な交流の場となった。

7. 関係団体との連携事業

全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）、日本盲人社会福祉施設協議会、中部ブロック点字図書館等連絡協議会（中部ブロック）、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会の会員として、委員を派遣するとともに会議、研修会などに積極的に参加・協力をした。

当施設のサービスを多くの方に知って頂くため、愛知県眼科医会との連携による「スマートサイトあいち」への協力、名古屋盲学校・名古屋市総合リハビリテーションとの情報共有・連携のため「名古屋視覚障害研究会」を実施した。また、視覚障害当事者団体（名古屋市視覚障害者協会・JRPS 愛知など）への情報提供・用具販売、愛知視覚障害者援護促進協議会・東海音訳学習会などへの講師派遣・運営協力など、中部地区の関係団体と密接に連携し、視覚障害者の文化・福祉向上に貢献した。

VIII 瀬古マザー園拠点

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
〃	『矢田マザー園デイサービスセンター』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園指定短期入所生活介護事業所』
居宅介護事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

第3期3ヵ年計画の初年度として、「利用者が主役」「マザー園に行けば一人ひとりの人生が輝く」をスローガンに、個別ケアの推進と利用稼働率の向上等を目指して取り組んだ。

利用稼働率については、最も課題となっていた矢田デイは回復することができず、引き続き大きな課題となっている。特養は前年比で向上、盲養護、ショートが横ばい、瀬古デイと居宅が低下となった。利用稼働率の向上には今後も注力していく。

今後、サービスの質を担保し、マザー園が利用者に選ばれる施設で有り続けるためにも設備面・サービス面共に、大規模な更新、大きな変化の必要性を強く感じ改善を進めた。特養の体制面では個別ケア推進に向けてサービス提供体制をフロア制にシフトした。住環境整備面では開設当初から使用していた手動式居室ベッド50台を電動ベッドへ更新した。養護では利用者向けにWi-Fi環境を整備した。拠点全体の設備面では受水槽の破損により急遽更新工事を実施した。

前年度に引き続き、求人活動に多くの労力と経費を費やしたが、育休からの復帰職員も含め、年度末にはほぼ人員体制は整った。今後は、未来を見据えた人員体制整備に取り組んでいく必要がある。

地域貢献活動については、前年度の調査結果を踏まえて地域活動に参加し関係づくりに努めた。地域交流行事は、当年度も隣接する学童保育事業所と共催で実施した。

1 特別養護老人ホーム 『瀬古第一マザー園』

平成30年度の利用稼働率は、93.9%（前年度比+2.5ポイント）と2年連続の増加となった。空床の約2割は新利用者入所までの空床であり、退所後できるだけ早期の入所に努めた。残りの8割は利用者入院による空床であり、利用者の日頃の体調管理と退院時の早期受け入れ態勢整備に努めた。引き続き空床を減らす努力を継続する。

個別ケアの実践に向けて、従来の2フロアを介護職員全体で受け持つ体制から介護職員を各フロアに固定配置する「フロア制」へと移行した。これにより、利用者個々の状態把握がしやすくなり、フロア会議で利用者個々のケアを検討する機会が増える等意識が高まっている。低床ベッド等への入れ替えをはじめ、オムツ業者の見直し、排泄ケアのアイテム変更等、個別ケアに必要な介護用品の整備も進めた。認知症ケア

実践者研修等へも計画的に職員を派遣した。また、看取り介護の実施に向けて研修会参加と報告会の実施、職員同士の意見交換、課題の列挙と整理、ケースを通しての嘱託医との意見調整等を行った。今後は個別ケアの更なる向上を目指すとともに、「看取り介護」の実施に向けて具体的な準備を進める。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	18	16	57	60
H29年度	18	17	58	
H30年度	11	10	59	
(H30年度退所者)：死亡9名、医療機関1名				

イ 要介護度状況 (年度末時点)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均要介護度
H28年度	1	6	20	18	12	57	3.5
H29年度	1	3	30	13	11	58	3.5
H30年度	1	3	27	17	11	59	3.6

ウ 施設利用状況

定員(名)		実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	利用稼働率
60	H28年度	365	19,553	53.6	89.3%
	H29年度	365	20,009	54.8	91.4%
	H30年度	365	20,565	56.3	93.9%

2 盲養護老人ホーム 『瀬古第二マザー園』

収入のベースとなる毎月1日の在籍者数は全ての月で定員50名の満床を確保できた。入退所は、年間1名と入れ替わりの少ない年度だった。待機者は3月末現在で女性8名、男性2名の10名となっている。

平成30年度は、新たに介護認定を受ける入所者は少なかったが、介護認定者総数は徐々に増えている。ADLの低下もあり今後も増加が見込まれるので、丁寧に対応する必要がある。入浴や活動のためのデイサービスの利用よりも居室の清掃・洗濯を目的とした訪問介護の利用開始が多かった。

利用者の希望や楽しみに着目しながら個別支援計画を作成、介護予防に向けての体操や散歩も継続的に実施した。看護師も居室を回り、利用者の健康状態把握に努めた。

平成29年度初めて福祉教育(利用者を主役とした小中学校への出張講座)への取り組みを守山区社会福祉協議会と連携して実施したが、平成30年度は守山区社会福

社協議会の担当者が変更となったことや、職員の実施体制が十分確保できなかったこともあり、実施できなかった。次年度は区社協との連携を強化しつつ、地域貢献活動の一つとして福祉教育に参加したい。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
H28年度	9	9	50	50
H29年度	6	6	50	
H30年度	1	1	50	
(H30年度退所者)：在宅0名、医療機関1名、介護保険施設0名、死亡0名				

イ 施設利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者	50	50	50	50	50	50	50	50	50	49	50	50	—
入所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
退所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

ウ 視覚障害等級別状況

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	計
H28年度	31	16	2	1	0	0	0	50
H29年度	31	16	2	0	0	0	1	50
H30年度	31	17	2	0	0	0	0	50

エ 要介護度状況（年度末時点）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H28年度	40	1	2	2	4	0	0	1	50
H29年度	33	2	7	4	2	2	0	0	50
H30年度	34	0	7	2	3	4	0	0	50

3 短期入所生活介護事業 『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』

平成30年度の利用稼働率は、93.8%（前年度比▲3.4ポイント）となり、目標値95%には至らなかった。特養入所者の入院が前年度よりも少なく、短期間で退院するケースが多かったため空床利用の減少が利用稼働率の低下に影響している。緊急な要望にも可能な限り対応し、少ない中でも空床活用には取り組んだが、広報活動までは着手できなかった。

毎月、ショート会議を開催し介護・看護部門、栄養士、相談員が当月の利用者の利用状況を確認し、短期入所生活介護計画書の内容について見直しを行った。各職種が利用者の心身の状態の変化を共有し、多職種協働でサービスが提供できるように努め

ている。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
H28年度	8	7	15	4
H29年度	5	10	15	
H30年度	6	5	9	

※利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（3月実利用者）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H28年度	1	0	0	5	5	4	0	15
H29年度	1	1	1	1	8	2	1	15
H30年度	0	0	0	0	5	3	1	9

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
4	H28年度	365	1,466	4.0	100.4%
	H29年度	365	1,419	3.9	97.2%
	H30年度	365	1,370	3.8	93.8%

4 高齢者デイサービス

(1) 『瀬古マザー園デイサービスセンター』

平成30年度年間延べ利用者数5,839名、年間平均利用稼働率は63.4%（前年度比△5.6ポイント）となった。上半期、利用者が瀬古第一マザー園に入所となるケースが多くあり、一時大きく減少した。居宅介護支援事業所への営業活動を行い、新規利用者獲得を進めるも、上半期での利用稼働率の挽回はかなわなかった。下半期に入り、コンスタントに新規利用者を迎え年度末に向けて徐々に利用稼働率は回復、3月単月で68.1%まで回復した。

リハ職を導入しての個別機能訓練メニューの導入を検討したが、課題も多く次年度に検討を持ち越した。接遇やサービス向上を目的に全スタッフが順次様々な外部研修に参加。加算については、次年度からサービス提供体制加算について一つ上の加算算定が決まった。

次年度は、介護保険制度の流れでもある「成果が実感できる生活リハビリ」の実施等、特色のあるサービスを創出すると同時に、デイサービスのフロア環境や業務を見直し、利用者が安心して過ごせる空間や時間を提供する。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
H28年度	23	25	52	30
H29年度	20	22	49	
H30年度	22	16	53	

※利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H28年度	6	5	11	14	13	2	1	52
H29年度	2	6	15	11	11	4	0	49
H30年度	3	4	13	15	10	8	0	53

ウ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
30	H28年度	309	5,827	18.9	62.9%
	H29年度	305	6,314	20.7	69.0%
	H30年度	307	5,839	19.0	63.4%

(2) 『矢田マザー園デイサービスセンター』

平成30年度年間の延利用者が4,874名（前年度4,983名）、1日平均利用者数は15.8名（前年度16.0名）と前年度と比較して減少、利用稼働率は0.6%低下した。

8月と1月には、入院や施設入所、体調不良や死亡等による利用中止が数多くあり、8月の利用稼働率が50.0%、1月が46.8%と大幅に減少し年間利用稼働率を押し下げた。結果、収支決算（サービス活動増減差額）は、▲7,009千円（29年度：▲4,547千円、28年度：▲5,593千円）と3年連続して赤字となり、赤字幅も増加した。

平成30年度より組織体制を強化し、積極的な広報活動を行ったが成果を上げるには至らなかった。未開拓の居宅介護支援事業所への営業や、より効果的な広報活動の必要がある。

障害分野の利用者も受け入れられる共生型サービスの申請を行い、12月より実施可能になるも年度内では共生型の利用者はなく、利用稼働率には反映できなかった。

1月には法人の期中監事監査を受審し、指摘を受けた内容や法人運営委員会での検討結果を踏まえ、次年度に向けた改善計画を作成した。次年度はこの計画に沿って利用稼働率向上を目指し、コンサルタントも活用し新規利用者の獲得に向け、共生型サービスも含め営業活動に力を注ぐ。また並行して利用者の満足度向上のため、サービスの充実（レクリエーションの拡充や選択型デイへの移行）を図る。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者※	定員
H28年度	11	12	45	30
H29年度	22	27	42	
H30年度	17	16	43	

※利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（3月実利用者）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H28年度	1	6	7	16	9	3	3	45
H29年度	1	5	9	17	9	1	0	42
H30年度	0	4	6	13	14	5	1	43

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
30	H28年度	309	5,208	16.9	56.2%
	H29年度	309	4,938	16.0	53.3%
	H30年度	308	4,874	15.8	52.7%

5 居宅介護支援事業 『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業』

平成30年1月より、ケアマネ3人体制（1名増）となり、平成30年度当初は新規利用者の受け入れに積極的に取り組んだ。しかし、上半期にケアマネの退職が続き、利用者契約解除が前年度より29件増の62件となった。給付管理件数は1,096件で前年度より66件減となった。下半期にケアマネ2人体制で落ち着いてからは、いきいき支援センターへの営業で得た新規紹介を断らず受け入れ、利用稼働率が72%から85%まで向上した。しかし、法人内通所介護事業所への紹介が増えたことにより集中減算の該当となり、次年度上半期は減算となる。

次年度は利用者のニーズに沿った幅広い事業所の紹介ができるよう情報収集と関係機関との良好な関係づくりを図るとともに、数字の管理を行い適切なサービス調整を行う。

	総合事業	要支援	要介護	合計（件）	利用稼働率
H28年度	30	245	809	1,084	98.3%
H29年度	109	225	828	1,162	88.2%
H30年度	145	196	755	1,096	78.5%
4、5、8、9月（3名体制）		(62)	(295)	(357)	(68.8%)
6、7月10～3月（2名体制）		(134)	(460)	(580)	(83.4%)

※利用稼働率の算定には総合事業の件数は含まず、ケアマネ1名について件数上限が変動するため利用稼働率が変動する。

6 ふれあいセンター 『瀬古平成会館』

平成30年度は、地域の方の使用目的でプロジェクターやインターネット環境の整備、音響設備の更新を実施した。新規利用も2団体あり、収入面では前年度比1%余りの増収となった。引き続き会館の維持管理、運営について利用基準の適切な運用に心がけ公益事業としての役割を果たしていく。

ア 施設利用状況

	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
H28年度	385	7,869	33
H29年度	481	9,169	34
H30年度	497	9,418	36

7 ボランティア等受け入れ状況

学校関係

団体名	活動日	活動内容等	活動人数
守山西中学校	8月29日	利用者とのふれあい、ジャズ披露等	122名
	11月4日	ジャズアンサンブル披露	30名
Mirai こども園	6月27日	歌の披露、利用者とのふれあい	19名
よつ葉こども園	7月25日	歌の披露、利用者とのふれあい	24名
中部善意銀行 夏季高校生ボランティア	8月1、3、 27、28、29日	瀬古デイ、盲養護での利用者とのふれあい等	9名

団体

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延べ 活動人数
グループあすなろ	2~4名	毎週金曜	盲養護入所者への朗読	76名
アンサンブルドリーム	6名	5月	演奏会	6名
愛知県理容生活衛生 同業組合（守山支部）	4~6名	毎月第1水曜	理髪奉仕（有償）	55名
点字ボランティア	1名	毎月1回	毎月の行事予定・献立の点訳	12名

個人

項目	基本活動日	活動内容	年間延べ活動人数
書道指導	月 1 回	書道クラブ（特養・瀬古デイ）	10 名
俳句指導	月 1 回	俳句クラブ（養護）	12 名
音楽指導	月 2 回	音楽クラブ（養護）	23 名
時計店	月 1 回	時計修理（特養・養護）	12 名
美容	月 1 回	個別美容	24 名
音楽療法	月 2 回	音楽療法（特養・瀬古デイ）（有償）	18 名
行事付き添い	随時	外出行事付き添い（養護）	41 名
裁縫ボラ	随時	繕い物作業（特養・養護）	23 名
創作教室ボラ	月 1 回	創作活動の実施（瀬古デイ）	20 名
盆踊り指導	6 月～8 月	ダンスクラブ(1 回約 4～5 名)（養護）	23 名
演奏会・発表会	随時	三味線、フラダンス、オカリナ （瀬古デイ）	11 名
夏祭り	7 月	入所者介助	15 名
ふれあい祭	11 月	地域交流会にて	47 名
		ボランティア総数（延べ人数）	632 名
		年間 1 日あたり人数	1.77 名

